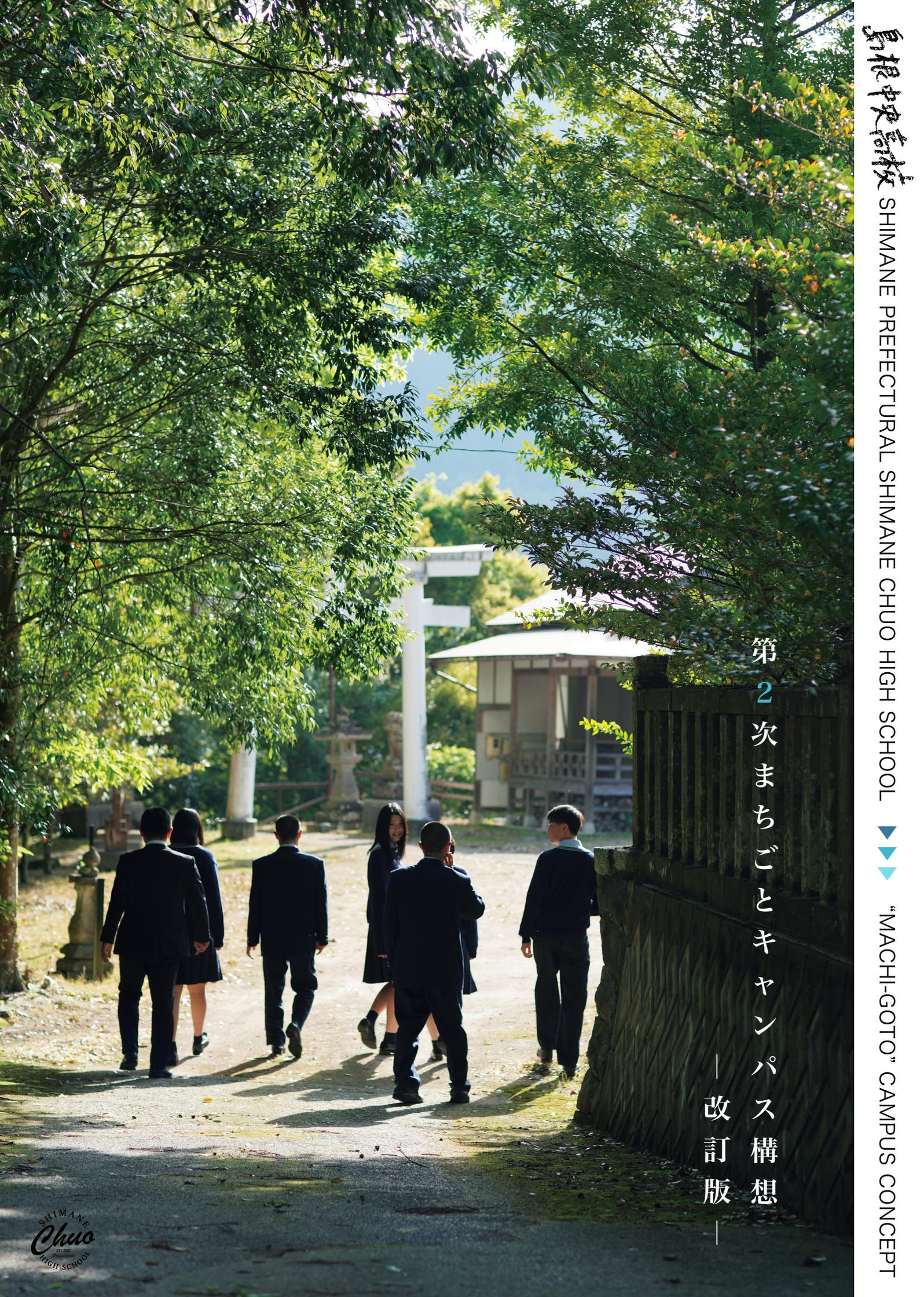




第2次まちごとキャンパス構想
— 改訂版 —



はじめに

今年度、島根中央高校は第16期生の入学を迎えました。川本高校・邑智高校の統合からしばらくは、一部で「10周年を迎えられるかどうか・・・」とも言われた本校ですが、生徒の活躍と成長、保護者や地域の方々のご支援ご協力、教職員の努力と研鑽により、「そろそろ20周年記念事業の計画を」という声が聞こえるようになりました。

高校を取り巻く周辺地域の中学校生徒数は、依然として入学定員を満たすには足りない状況ですが、「地元の生徒が進路先として迷いなく選択できる高校づくり」を、学校の自立運営のひとつの目標として取り組んできました。

本校を含む8校から始まった島根県教育魅力化推進事業は、その成果から事業が更新され続け、現在は島根県立全高校が取り組む事業となりました。

学校と地域が協働して生徒の育成を行う「教育の魅力化」は、今や島根県発の全国的な教育のキーワードとなり、本校では従前から行われている越境入学も、県の「しまね留学」の取り組みへ、そして全国的な「地域みらい留学」へと発展しています。

さて、学校と地域の共生を目指す「まちごとキャンパス構想（平成27年3月）」については、その成果と課題を明らかにし、さらに次の5年のビジョンを示す「第2次まちごとキャンパス構想」として令和3年3月に改編されたところです。

このたび、令和3年度の「教育創生コンソーシアム島根中央」の設立、令和4年度の新学習指導要領実施を受け、一部改訂を行うこととしました。

ここ島根中央高校に集う生徒たちにどのように育って欲しいのか、学校と地域で何を実現していくのか、主体的・創造的な対話を行いながら改善・探究し、新しい学校教育の実現に向け挑戦し続けねばなりません。

本構想を指針としながら、生徒の成長と地方創生をかなえる学校づくりにいっそう邁進していきたいと思えます。多くの皆様のさらなるご支援とご協力のほどよろしくお願い致します。

島根中央高等学校
校長 立石 祥美

目次

はじめに

第1章 構想策定の背景

第1節	第2次まちごとキャンパス構想を策定する理由	2
第2節	島根中央高校の現状	
(1)	教育課程・特色ある取り組み	3
(2)	生徒募集活動と生徒数	5
(3)	部活動	7
(4)	進路状況	8
(5)	寮生活	9
(6)	その他	9
第3節	第1次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題	
(1)	生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実	10
(2)	部活動を通じた活躍を表現する場の充実	12
(3)	地域特性を活かしたキャリア教育の推進	14
(4)	効果的なプロモーションの推進	16
(5)	多様な地域から集まる生徒の受け入れ体制の強化	18
(6)	魅力化推進体制の強化	20

第2章 第2次まちごとキャンパス構想

第1節	目指すビジョン	
(1)	目指すビジョン・グラウンドデザイン	23
第2節	第2次まちごとキャンパス構想の役割と基本方針	
(1)	構想の役割	25
(2)	基本方針	25
第3節	具体的取り組みと役割分担	
(1)	学校教育	27
(2)	社会教育	29
(3)	部活動	31
(4)	受け入れ体制	33
(5)	プロモーション	35
(6)	魅力化推進体制	37
第4節	推進体制と具体的取り組みの評価	
(1)	高校魅力化コンソーシアム	39
(2)	目標および評価基準と評価方法	41

【資料】①策定委員会名簿ほか ②役割分担 ③策定までの経過

おわりに

第1章

構想策定の背景

第1章 第1節 第2次まちごとキャンパス構想を策定する理由

本校では平成24年度より「高校魅力化・活性化事業」に取り組んできた。その歩みの中で進めてきた事業の総括とそれらを踏まえた戦略の立案・実行を表した「島根中央高等学校まちごとキャンパス構想」を平成27年3月に策定し、向こう5年間で進むべきビジョンとその実現に向けた施策、役割分担を明らかにした。この構想を校内外の関係者と共有することで、魅力化・活性化の推進を進めてきたところである。

また、本校を取り巻く状況の変化に対応するため、平成30年に各魅力化事業の担当者へのヒアリングを実施して具体的取り組みの一部に見直しを図り、平成30年度、平成31年度（令和元年度）の2年間の魅力化事業を進めてきた。

平成27年3月に策定した「島根中央高等学校まちごとキャンパス構想」は5年間を経過して一定の成果を残しつつその役割をひとまず終えることとなる。

しかしながら、本章第3節で述べるように、この5年間の魅力化事業推進にはさまざまな課題が見え、その取り組みは十分とは言えない面もいくつかありまだ道半ばといえる。

また次節にあるように平成27年3月の構想策定以後の5年間で、本校の現状や高校と地域との関係にも変化がみられ、これらの現状を踏まえた新しい構想が求められる。

このたび、5年間の魅力化事業を振り返りその成果と課題を検証するとともに、現在の本校の現状と置かれた環境を踏まえ、次の5年間の指針となるべく第2次まちごとキャンパス構想を新たに策定することとした。ここで策定した構想によって本校の次なる5年間の魅力化事業の方向性が明らかとなり、各具体的取り組みが進められていくこととなる。

第1章 第2節 島根中央高校の現状

1) 教育課程・特色ある取り組み

本校は、島根県で唯一の普通科コース制・総合選択制という形態をとり、多様な生徒の進路目標を達成できるようになっている。1年次には自分の適性や進路を模索し、2年次から3つの設定されたコースから自分の進路に合わせたコースを選択する。

(開校当初は人文科学、自然科学、現代ビジネス、地域創造の4コースを開講していたが、平成28年度入学生より現代ビジネスと地域創造の2コースを地域デザインに統合再編した)

また、1クラス30人体制(令和2年度入学生からは35人)を基本とする少人数指導体制をとり、一人ひとりの到達度・理解度に合わせたきめ細かい指導ができる体制を維持している。

地域を学習の場とするさまざまな授業も開設されており、例えば、毎週1回、1年をかけて町内の事業所にて就労体験を行う地域デザインコース2年次の「まちごとキャンパス学習」や地域の課題解決に向けて生徒自らが立案した企画を実施運営する同コース2年次の「ふるさと学」、3年次の「地域デザイン」などの特徴的な取り組みが多くあり、これらの学びによって、生涯を通して豊かな生活を送るための基礎となる力や地域社会のリーダーとなるのに必要な力の育成を目指している。



■まちごとキャンパス学習
地域デザインコース(2年次)の授業。年間通して職場体験実習を実施。人文・自然コースは短期職場体験実習を実施。



■ふるさと学
地域デザインコース(2年次)の授業。令和元年度は地域の高齢者や未就学児童の集う場を生徒が企画、実践。



■地域デザイン
地域デザインコース(3年次)の授業。令和元年度は弥山荘の高校生一日運営。



■石見銀山保全活動
ユネスコスクール活動の一環として、大森町内の清掃活動を実施。令和元年度は大森小学校と協働。



■総合的な探究の時間(1年次)
川本・美郷・桜江の各所を訪問し、体験活動を通して地域の自然、文化、歴史、産業などについて知る学習。

令和4年度入学生教育課程表

1年		2年				3年			
		コース	人文科学	自然科学	地域デザイン	コース	人文科学	自然科学	地域デザイン
1	現代の国語	1	体育	体育	1	体育	体育	体育	
2		2							
3	言語文化	3	保健	保健	3	論理国語	論理国語	論理国語	
4		4							
5		5							
6	地理総合	6	情報Ⅰ	情報Ⅰ	6	文学国語	倫理	倫理	
7		7							
8	歴史総合	8	世界史探究/ 日本史探究/	論理国語	8	世界史探究/ 日本史探究	数学演習	数学演習	
9		9							
10	数学Ⅰ	10	数学Ⅱ	数学演習	10	英語コミュニケー ションⅢ	総合英語Ⅱ	総合英語Ⅱ	
11		11							
12		12							
13	数学A	13	総合英語Ⅰ	総合英語Ⅰ	13	英語コミュニケー ションⅢ	キャリア探究	キャリア探究	
14		14							
15	物理基礎	15	英語コミュニケー ションⅡ	ふるさと学	15	論理・表現Ⅲ	地域デザイン (商業系科目)	地域デザイン (商業系科目)	
16		16							
17	生物基礎	17	論理・表現Ⅱ	まちごとキャンパ ス学習	17	論理・表現Ⅲ	課題研究	課題研究	
18		18							
19	体育	19	化学基礎	ビジネス基礎	19	化学基礎 化学	課題研究	課題研究	
20		20							
21		21							
22	保険	22	文学国語	文学国語	22	倫理	物理/ 生物	マーケティング/ 生活と福祉	
23	音楽Ⅰ/ 美術Ⅰ/ 書道Ⅰ	23	論理国語	論理国語	23				
24		24	論理国語	古典探究	24	情報Ⅰ	ソフトウェア活用/ フードデザイン	ソフトウェア活用/ フードデザイン	
25	英語コミュニ ケーションⅠ	25	古典探究	化学	25				
26		26			数学Ⅲ/ 数学演習ⅠA・ 数学演習ⅡB	音楽Ⅱ/美術Ⅱ/ 書道Ⅱ/工芸Ⅰ/ 自然スポーツ/ 保育基礎	音楽Ⅱ/美術Ⅱ/ 書道Ⅱ/工芸Ⅰ/ 自然スポーツ/ 保育基礎		
27	27	数学Ⅲ/ 数学演習ⅠA・ 数学演習ⅡB	音楽Ⅱ/美術Ⅱ/ 書道Ⅱ/工芸Ⅰ/ 自然スポーツ/ 保育基礎	音楽Ⅱ/美術Ⅱ/ 書道Ⅱ/工芸Ⅰ/ 自然スポーツ/ 保育基礎					
28	論理・表現Ⅰ				28	数学演習ⅠA	物理/ 生物	28	数学C・数 学演習ⅡB/ 総合英語Ⅱ/ ソルフェージュ/ 素描
29		29	実践英語	生物	29				
30	家庭基礎	30	数学B/ 総合英語Ⅰ/ 保険基礎	数学B	30	数学C・数 学演習ⅡB/ 総合英語Ⅱ/ ソルフェージュ/ 素描	数学C 数学演習ⅠA・ 数学演習ⅡB	自然スポーツ/ 保育基礎	
31		31	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	31				
32	総合的な探究の時間	32	総合的な探究の時間	HR活動	32	総合的な探究の時間	HR活動	HR活動	
33	HR活動	33	HR活動	HR活動	33	HR活動	HR活動	HR活動	

共通履修科目	コース設定科目	自由選択科目
--------	---------	--------

2) 生徒募集活動と生徒数

開校当初の平成19年度入学定員は160名であり、それに対し初年度入学生は113名であった。翌年の入学定員から120名に減少され、入学者数も90名を超えない状況が数年続き、入学定員も平成27年度入学生から90名となった。

一方、「しまね留学」（積極的な県外生徒募集）により、平成26年度以降、県外中学校からの入学生は増加している。その結果、平成28年度入学者選抜および令和元年度入学者選抜では出願者数が入学定員90名を超過し、令和2年度入学定員105名への増加に結びついた。

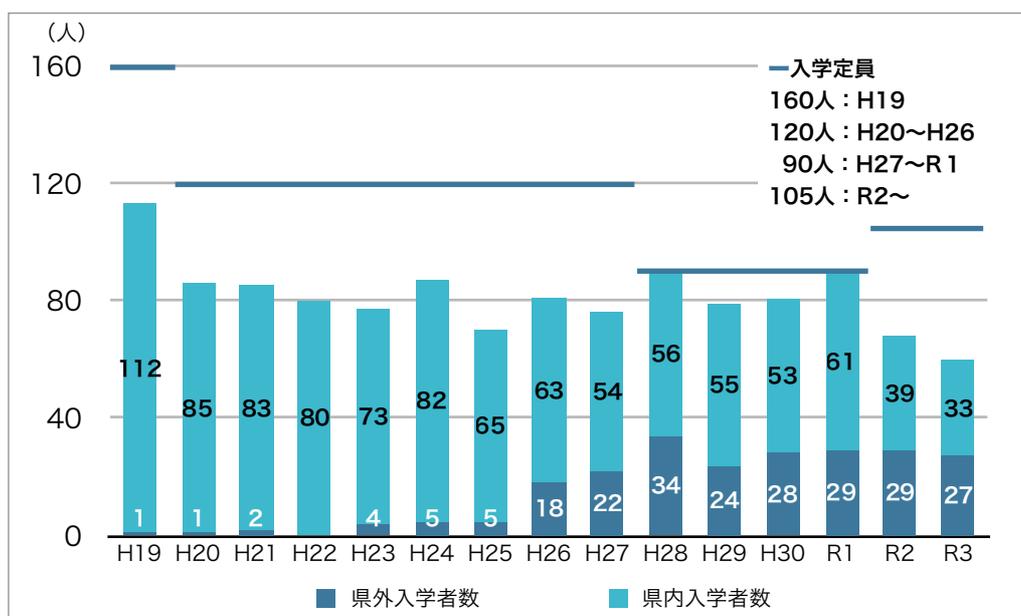


図1.県内外入学者数の推移

本校は令和2年度より島根県教育委員会が指定する「しまね留学推進校」として引き続き、積極的な県外生徒募集を継続していく計画である。参考までに、令和元年度の生徒募集活動の状況は以下のとおりである。

なお、「しまね留学」の取り組みは、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームにより「地域みらい留学」として全国の多くの高校にその動きが広がっており、年々加盟登録校が増加しつつある。

<主な生徒募集の取り組み>

- 学校案内パンフレットおよびPR動画の作成
- 県内中学校訪問（進路説明会参加）
- 部顧問による訪問募集活動
（県内外中学校やクラブチーム等）
- オープンスクール
- 学校だより「島根中央高校だより」を県内中学校へ配布
- 県外対象の説明会
（東京、大阪、名古屋、福岡、広島、バスツアー）
- 学校見学受け入れ
- 県外保護者対象説明会
- 県外塾講師との交流会 など



島根中央高校後援会（以後、後援会と呼ぶ）の強力なバックアップにより、県外生徒募集はさまざまな取り組みが一定の成果をあげている。一方で県内の中学校に目を向けると、図2にあるように川本、邑智、大和、桜江各中学校の卒業予定者数が、仮に全員入学したとしても、入学定員を充足することはなく、今後も入学生確保で厳しい状況が続いていることには変わらない。

引き続き、生徒募集につながるより効果的な魅力化事業の展開が強く求められていることは明らかである。

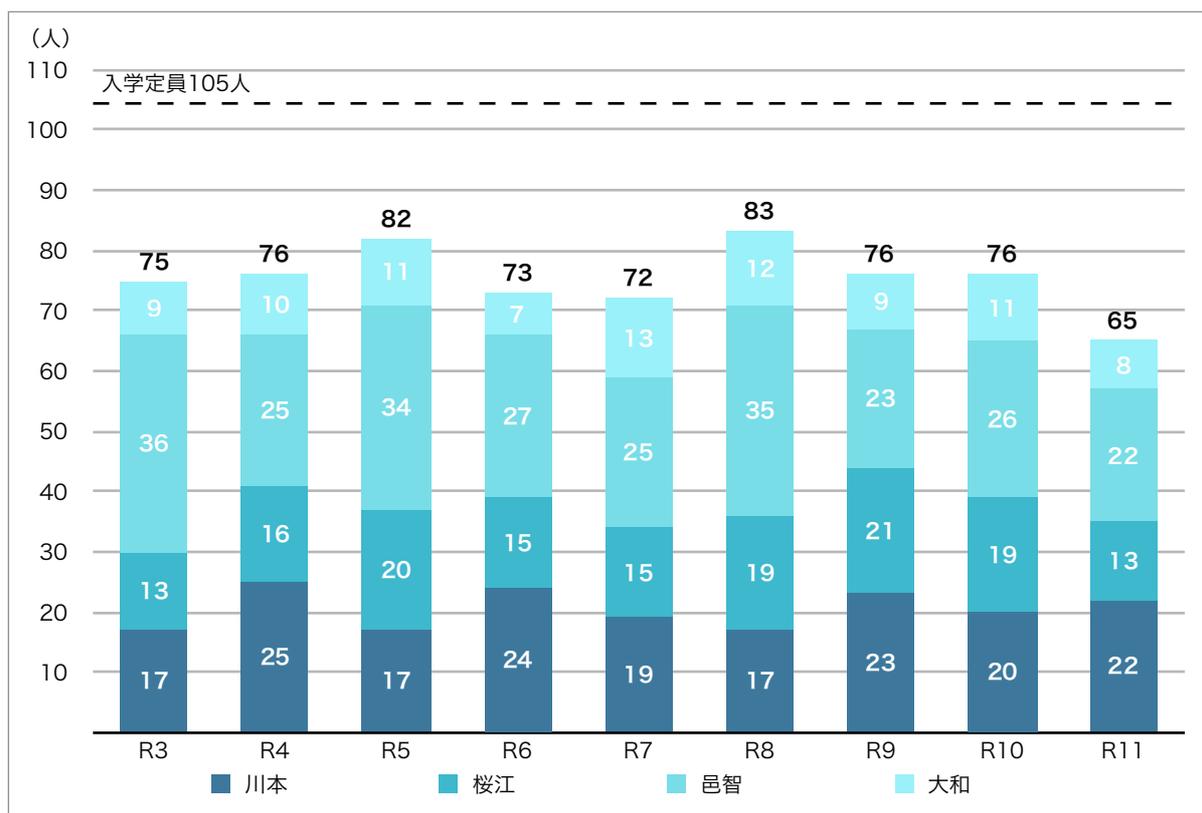


図2.周辺地域の中学校卒業生予想数

3) 部活動

令和3年度現在の部活動数と部員数（延べ数）は表1のとおりである。部活動入部率は約90.6%である。学校規模と生徒数に対して入部率は高く部活動数はやや多いと言えるが、生徒の選択肢の確保という観点から部活動数を削減することなく、希望する個々の生徒に、充実した高校生活が提供できるような体制を維持している。

令和元年度より創部された女子硬式野球部が令和3年7月の全国高等学校女子硬式野球選手権大会に出場、カヌー部は同年8月インターハイ優勝、ジュニアカヌースプリント世界選手権出場を果たし、吹奏楽部も同年8月の全日本吹奏楽コンクール中国大会で金賞を受賞するなど、各部が活躍し優れた実績を残している。

一方で、部活動に所属している生徒の約6割が男女硬式野球部、カヌー部、吹奏楽部の所属であり、この4つの部を除くその他の部は部員数が少なく、活動維持に苦慮している面も見られる。

表1.部活動の種類と部員数 (令和3年9月現在)

部活動の種類		部員数	部活動の種類		部員数
運動系	男子硬式野球	35	文化系	吹奏楽	24
	カヌー	22		美術	14
	バスケットボール	13		写真	5
	バレーボール	12		ワープロ	2
	女子硬式野球	35		自然科学	2
	ソフトテニス	12		茶華道	5
	陸上競技	9		新聞	1
	剣道	4			
	小計	142		小計	53
合計		195	部活動加入率		90.6%

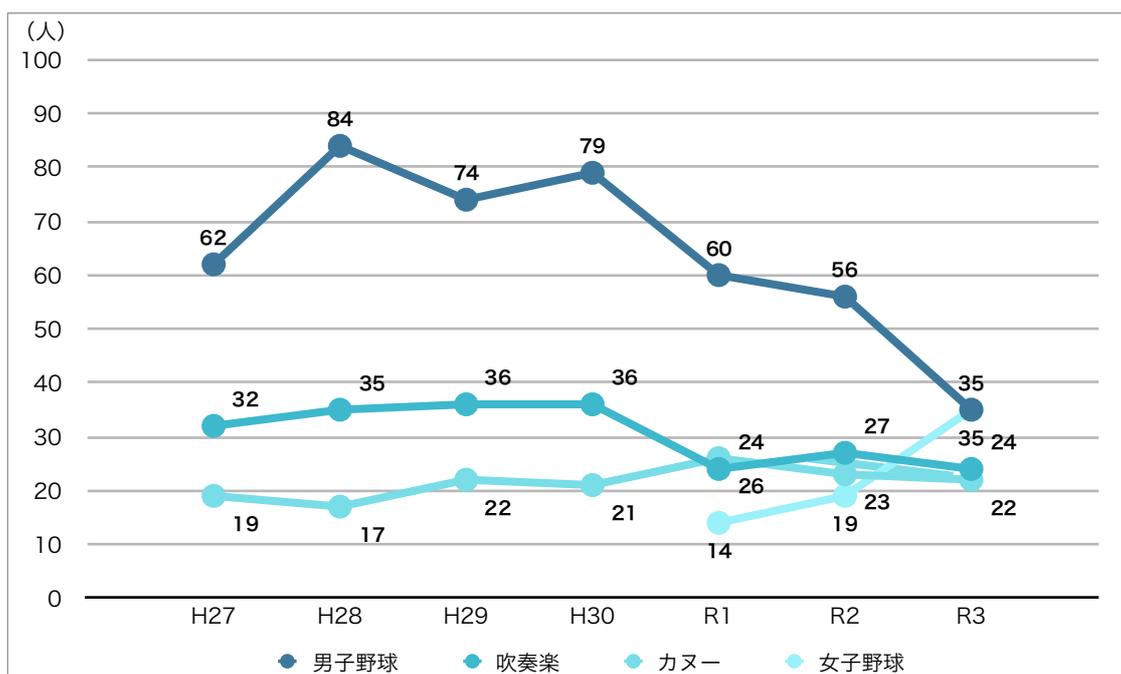


図3.部員推移 (野球、吹奏楽、カヌー)

4) 進路状況

過去5年間の卒業生の進学・就職の状況は下表のとおりとなっている。国公立・私立四年制大学、短期大学、専門学校への進学、公務員や民間企業への就職など幅広い進路希望をもつ生徒が在籍しているのが本校の特徴である。近年は卒業生の7割から8割が進学している状況で、特に四年制大学進学者は毎年一定数いるが、うち国公立大学合格者数は1桁にとどまっている。

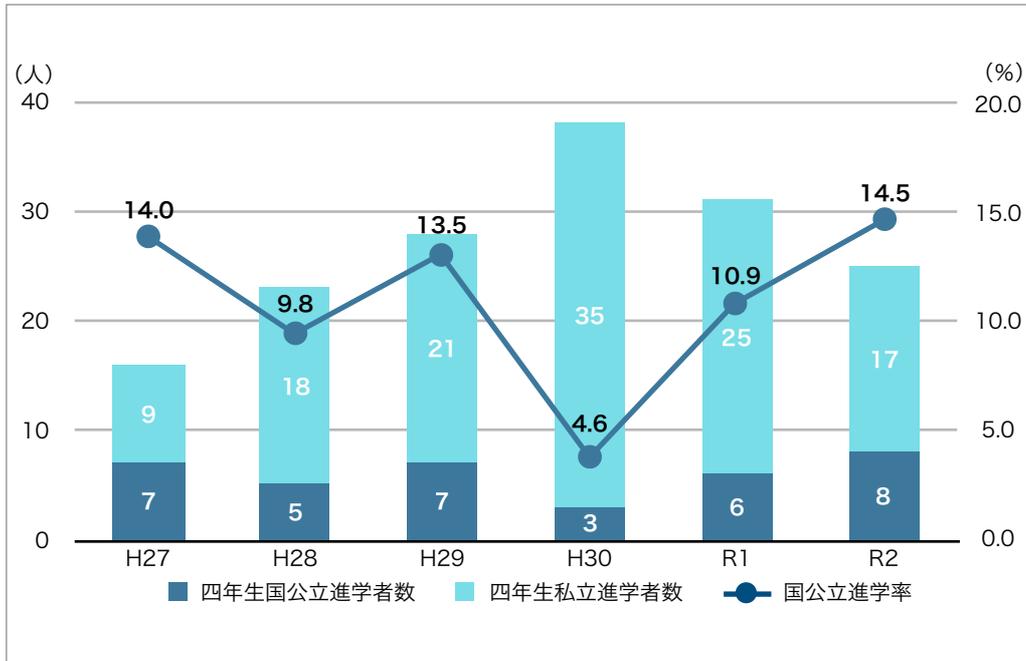


図4.国公立・私立進学者数と国公立進学率の推移

表2.卒業生の進路

	四年制大学		短期大学		専門 学校	就職		卒業生数
	国公立	私立	公立	私立		公務員	民間	
R2	8	17	1	4	25	3	13	76
R1 (H31)	6	25	-	-	24	-	17	72
H30	3	35	0	1	26	5	11	85
H29	7	21	0	4	20	4	12	74
H28	5	18	1	3	24	1	22	77
H27	7	9	2	5	27	-	11	61
H26	4	21	1	3	26	1	23	83
H25	11	11	3	3	20	2	21	71
H24	12	15	1	8	15	-	20	71
H23	13	15	2	7	18	1	19	76
H22	10	6	3	6	23	4	21	74
H21	17	12	2	6	35	4	21	97

5) 寮生活

県外生に加え県内他地域の寮生数が増えており、令和3年度の寮生数は115名、全校生徒の約半数が寮生である。女子生徒入学数確保のため、生活拠点施設の建設に着手し、令和2年度に「まちごと魅力化センター『C Pieces+（シーピース）』」の運営がスタートした。

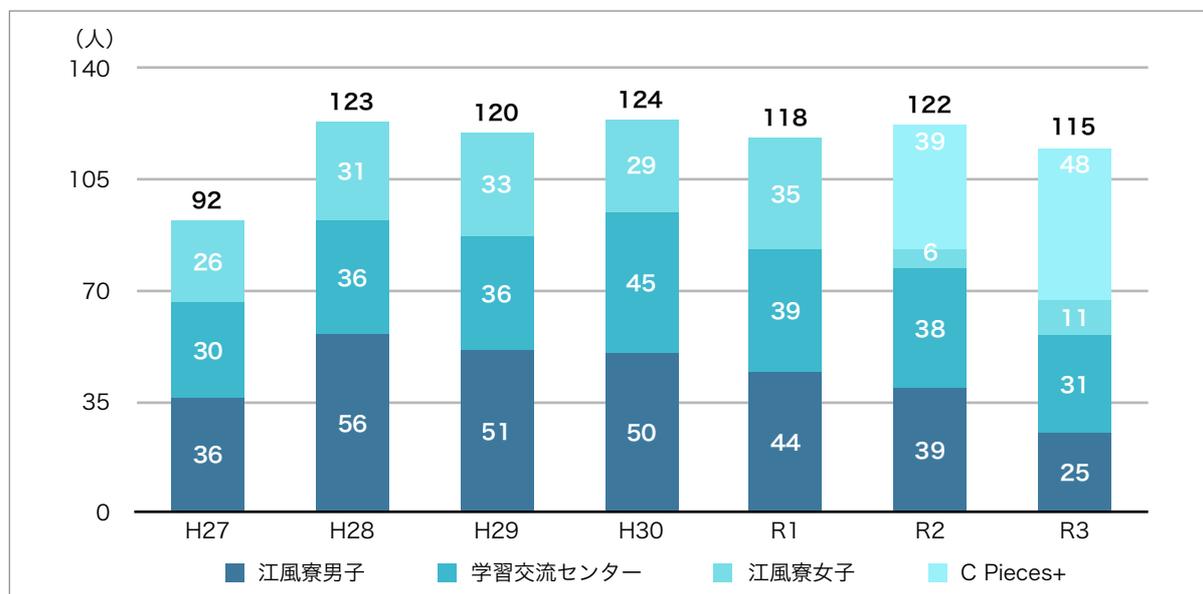
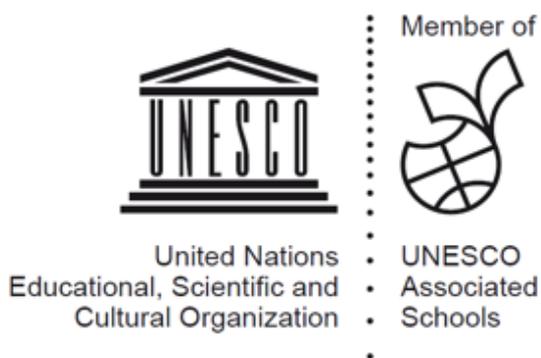


図5.寮生数の推移

6) その他

本校は平成24年1月にユネスコスクール※1として認定されており、世界遺産に登録された石見銀山の保全活動等を中心に地域理解を進め、「総合的な探究の時間」で体系的な取り組みを行なっている。

※1 ASPnet (Associated Schools Project Network) としてユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として1953年に発足。本校では環境教育、国際理解教育や世界遺産・地域の文化財等に関する教育とするために、教職員の共通理解や意識の向上を図り、教科学習や特別活動にも「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development (E S D教育)」を視野に入れた取り組みを行なっている。



第1章 第3節 第1次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題

1) 生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実

①学習支援・進学支援の充実

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
大学生による学習サポートの充実	△定期試験前に大学生による個別学習指導を行う。 ●島根大学の1000時間体験学習を活用し定期試験前の個別指導を年3回程度、川本中学校と合同で実施する。また、大学進学した卒業生によるサポートを充実させる。	□	□	□	□	□
進路指導部	島大1000時間を活用して実施。県立大生が来た年もある。またH30より邑智中にも案内。川本中からは毎回5～6名が参加。中学生、高校生ともに参加者が同じ顔ぶれになりやすい。					
△県外大学訪問の充実	△進学希望生徒について、広島大・岡山大をはじめとした近隣の大学を訪問する。	□	□	□		
進路指導部	毎年、大学訪問は実施されたが、近隣の大学よりも都会の大学に訪問することが多かった。H30より進学ゼミへ移行。					
進学ゼミの強化	△東京研修・勉強合宿・予備校派遣等を通じて国公立大・難関大への進学を希望する生徒のトータルサポートを行う。 ●進学ゼミを部活動として日常的な活動にする。また、英検の対策講座や受験料無料化を検討する。	□	□	□	□	□
進路指導部・教務部	担当が毎年変わるため活動に継続性がなく、取り組みが進まない面がある。生徒の希望者数は減少傾向。					
△医学部進学講座の開設	△医学部への進学を希望する生徒のための有名進学塾のサテライト講座や、加藤病院と連携した特別研修等を実施する。	-	-	-		
進路指導部	実施なし。					
公務員講座の開設	△公務員を目指す生徒に対し、年間を通じた学習支援および県内専門学校と連携した試験対策講座を実施する。 ●公務員模試に照準を合わせ松江の専門学校講師に依頼。3回～4回程度。開催時間は所属部活動と協議する。川本町役場の島根中央高校採用枠を検討する。	□	□	□	□	□
進路指導部	例年5、6名の公務員志望者に対して講座を開設。H30に5名の公務員合格者を出し、一定の成果を得た。2年次からの早期対策が必要だが部活動とのバランスが課題。川本町役場の島根中央高校採用枠はなく、今後も予定はない。（困難）					
△就学支援制度の整備	△難関大学への進学や地域リーダーを目指す生徒に対して就学支援金を交付する。	□	□	□		
(進路指導部)	後援会の学業奨励金制度により、奨励金を支給。～H30まで継続して実施した。					
関西・関東地区の大学の指定校開拓	●関西・関東出身の生徒が増加しているため、関西・関東地区の大学の指定校推薦を開拓することで、生徒の進路選択の幅を広げ、生徒募集にも活用する。				-	-
進路指導部	開拓していない。					

②学習環境の充実

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
△学習ルームの充実	△空調機器を整備し、快適な学習環境を提供する。また、生徒のニーズに応じた参考書を揃える。	□	□	□		
教務部	学習ルームの整備を行った。					
△憩いの空間の整備	△中庭を改修し、立ち入り規制を緩和する。	-	-	-		
総務部・事務部	実施なし。					
△進路資料室分室の整備	△図書室内に進路資料室分室を設置する。	-	-	-		
進路指導部・図書部	実施なし。					
△情報メディアセンター機能の整備	△図書室を情報メディアセンターとして整備する。	□	□	□		
図書部・総務部	10周年記念事業でテレビ、パソコンを配置。					
●ICT環境の整備	●学習ルーム等へのWi-Fiを導入する。授業等への活用方法を検討する。				□	-
教務部	学習ルームWi-Fi環境はH29に整備。普通教室のICT機器整備はH30に完了し、授業等でも積極的に活用されている。					
●個別指導スペースの整備	●職員室に近接した場所に、空調管理のできる個別指導スペースを整備する。				-	-
教務部	整備はできていない。					

2) 部活動を通じた活躍を表現する場の充実

①部活動への多様な参加機会の提供

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
地域系部活動の推進	△文化系の部と生徒会、家庭クラブが合同で地域催事などのイベントに積極的に参加する。 ●地域系部活動の体制の見直しを検討する。部活動に所属していない生徒の地域活動のコーディネートについても体制づくりをしていく。	□	□	□	□	□
生徒指導部・地域系部活動顧問	複数の部活動が複合した存在であることが校内外で認知されておらず、1つの団体があるように思われがち。また、生徒の活動についての校内での情報共有が不足。					
△休日部活動サポートバスの運行	△土曜日や休業日に邑智・大和方面、温泉津方面の送迎バスを増設する。また、既に運行している江津方面の便については送迎エリアを江津駅まで拡大する。	-	□	□		
総務部・事務部	スクールバスはH29までは、朝、夕、休日に各方面に向けて運行し、一定の成果があったものの、利用する生徒のすべての要望をかなえることは難しい。（三江線廃止以降は、路線バス運行本数が増えて状況に大きな変化があった。スクールバスは学習交流センターと学校間の朝夕便と一部地域への運行を継続している）					
地域住民との連携	△地域で茶道や華道などを得意とする住民や、地域の公民館活動と連携することで教員の負担を軽減するほか、生徒に質の高い部活動を提供する。 ●西公民館（因原地区）との活動を継続、発展させるとともに、三原地区の公民館や美郷町の公民館との活動も検討する。	□	□	□	□	□
各部活動顧問・地域系部活動顧問	地域系部活動を中心に地域で生徒が活動する機会を多く得ることができている。地域からは、生徒に参加してもらいたい気持ちがあるものの高校に声をかけることを躊躇するという話も聞かれる。					

②周辺地域の特性を活かした部活動の強化

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
地域指導者活用	吹奏楽部、カヌー部、野球部やその他の部について、地域の指導者を依頼、活用する。	□	□	□	□	□
生徒指導部	地域指導者を依頼している。女子硬式野球部は後援会の支援で指導者（部活動指導員）を確保した。					
専門指導者の招聘	全国の舞台での活躍を目指し、日本代表経験者やスポーツトレーナーを招聘する。	□	□	□	□	□
生徒指導部	吹奏楽部、野球部で後援会の支援を活用し実施した。					
強豪他校との合同練習の強化	強豪他校と積極的に合同練習を行う。	□	□	□	□	□
各部活動顧問	野球部で後援会の支援を活用し実施した。					
スポーツ活動への高校生派遣サポート	野球、剣道、バスケットボール、バレーボールなどの周辺地域でのスポーツ活動へ高校の部員を派遣して活動を支援する。	□	□	□	□	□
各部活動顧問	地域駅伝への参加や小中学生の大会に役員として参加した。					
中学校部活動との合同練習・体験	周辺地域中学校の部活動と合同練習および中学生の体験入部を実施する。	□	□	□	□	□
各部活動顧問	一部の部活動で中高合同練習・練習試合をしている。					
●部活動（競技）体験Dayの実施	●地域住民や中学生向けの部活動（競技）体験を実施し、競技の認知度を高め町全体で部活動を応援する機運の醸成と入部希望者の獲得を図る。				-	-
生徒指導部・教務部	実施なし。					

3) 地域特性を活かしたキャリア教育の推進

① 地元企業との連携

事業名	内容 ●:H30追加 (または修正) △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
△地元企業就労者による講演会の開催	△地元企業の経営者や、地元で働く人の講演会を実施する。	□	□	□		
進路指導部	「医療福祉講演会」「先輩講話」として実施。					
●地元企業による合同企業説明会	●邑智郡内等の企業に来ていただき、高卒・大卒を対象とした合同企業説明会を行う。				-	-
進路指導部	実施なし。					
新「しまちゅう弁当」の開発	△フードデザインの授業を活用し、町内の事業者等と連携しながら新「しまちゅう弁当」を開発する。また、H27年度から鳥根県が実施予定の高校生によるランチ対決「食の縁結び甲子園」に出場し、入賞を目指す。 ●「しまちゅう弁当」を校外へアピール、販売する方法を考える。	□	□	□	□	□
家庭科	地域デザインコース（3年次）のフードデザインの授業で弁当をつくり高校内での販売を行っている。					
△特産品を活用した新商品の開発	△エゴマやイノシシ、ゴボウ等の地域特産品を活用した新たな商品を開発する。	-	-	-		
家庭科・商業科	実施なし。					
●地元企業と連携した取り組み	●「地域デザイン」で近隣の企業から新商品の開発等の課題をいただき提案を行う。ふるさとフェアでの販売等も検討する。				-	□
商業科	町内温泉施設「弥山荘」で生徒が一日運営を実施。授業の実施体制や受け入れ側の収容人数に限度があるなどの課題がある。					
まちごとキャンパス学習の強化	体験事業所の拡充や成果体験発表会を充実する。 ●これまでの取り組みを検証し、今後のまちキャン学習の発展的な実施方法について検討する。	□	□	□	□	□
教科担当	長年継続できている実績はあるが、行くだけで満足している部分がある。まちごとキャンパス学習の趣旨など事業所側との連携が不十分。					
△コラボレストランでの新メニュー開発および営業体験の実施	△美郷町道の駅にリニューアルオープンするレストランのメニューを開発するほか、月1回程度のホールスタッフ体験やチラシ作成、吹奏楽部によるサロンコンサート、写真部や美術部の作品展示など、レストラン営業に積極的に参加する。	□	-	-		
家庭科・商業科	H27は家庭科授業で作ったメニューを実際に提供。またレストラン業務の手伝いに生徒が参加した。継続的な活動にはならなかった。					
●ふるさと学の強化	●まちづくり推進課と連携し「学生が魅力に思うまちづくり」をテーマに取り組み。中山間地域研究センター、西部県民センター、県立大学等と積極的に連携を図る。				□	□
地歴公民科	別のテーマで実施。1年次にガイドブック作成。地域デザインコース（2年次）のふるさと学で空き店舗を利用したサロン運営。今後継続できる内容に見直す必要がある。					

②地域活動への参加促進

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
△環境美化活動への参加	△自治会の草刈り等に積極的に参加する。	□	□	□		
総務部	実施なし。					
地域イベント設営作業の実施	自治会や商店街等のイベントの設営作業を地域住民と一緒に 行う。	□	□	□	□	□
各部顧問	部活動単位または個人での活動を行っている。					
△地域課題解決事業の実施	△住民との合同防災訓練など、地域の課題解決を主体的に 考えるための取り組みを行う。	-	-	-		
総務部	実施なし。					
空き店舗の活用	△商店街に近いという立地を活かし、空き店舗を高校生の手で ギャラリーとしての活用を試みる。 ●商店街に近いという立地を活かし、空き店舗を高校生の手で 居場所づくり等、にぎわいの創出に取り組む。	-	-	-	□	□
ふるさと学担当・魅力化コーディネーター	H30～R1のふるさと学で実施。商店街の集会所や空き店舗を活用した カフェでのにぎわい創出に取り組んだ。					
●地域活動の促進	●自治会や町等のイベントへの参加率を高める。また、より多くの 生徒が地域活動に参加し学びを得るとともに、地域の課題解決に 貢献するための手段として、地域通貨や地域活動奨励金の活用を 検討する。				□	□
地域系部活動顧問	参加した生徒のリポートは高いが、全体の参加人数は多くない。また、 地域通貨や奨励金の活用は検討されていない。					

4) 効果的なプロモーションの推進

①情報発信の充実

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
ホームページの更新	新しい情報を速やかに更新する。	□	□	□	□	□
総務部	H27～28はこまめに更新され記事数も多かったが、H28のFacebook開設に伴い、HPのトピックス記事が減少。「夢に向かって邁進中」等未更新の項目が多数ある。					
学校案内、DVD作成	学校生活がイメージできる内容の広報媒体を作成する。	□	□	□	□	□
総務部・教務部	学校案内パンフレットは、H30よりデザイナーに作成依頼している。H30までのDVDとR1作成のイメージ映像はいずれも生徒募集活動に大きく役立っている。					
学校だよりの発行	「島根中央高校だよりの」一冊分の情報量を減らし、発行頻度を上げる。なお、掲載内容については中学生を対象としたものへの見直しも検討する。	□	□	□	□	□
総務部	H27に5回、H28に4回、H29に5回、H30に5回、R1に3回発行。すべてカラー刷り。県内中学校、近隣の自治体、保護者に配付した。					
近隣町広報誌への掲載	主に部活動や進学・就職の実績、周辺地域でのイベントの事前情報等、一般住民向けの内容を掲載する。	□	□	□	□	□
総務部	月1回川本町発行「広報かわもと」に島根中央高校関連記事を掲載。美郷、桜江地区にはA4片面広報紙を自治体回覧で配布していたがH30途中より取りやめた。					
スクールバスを利用した情報掲示	周辺地域を運行するスクールバスに部活動や進学・就職の実績等を掲載する。	□	□	□	□	□
総務部	部活動上位大会出場、オープンスクール告知などのバスシールを作成し、スクールバス2台に貼付。H27～R1で計44回。					
横断幕の設置	部活動の大会出場決定時等に周辺地域に横断幕を設置する。	□	□	□	□	□
総務部	部活動上位大会出場、オープンスクール告知などを川本郵便局前、美郷町役場前などに設置。H27～R1で計48回。					
△町内施設の情報発信媒体の利用	△加藤病院に設置されているデジタルサイネージを活用し、来院者への情報提供を行う。	□	-	-		
総務部	H27途中に機器の不具合により、サービス提供（てこデジ）が終了した。					
卒業生との連携によるPR強化	△卒業生会と連携し、日本各地に居住する卒業生に情報発信の協力体制を構築する ●引き続き県外生と保護者にPRサポーターとして登録してもらうほか、3年次の卒業前にもサポーターを募集し県外へ出て行く町内生、町外生にもサポーターになってもらう。	-	-	□	□	□
総務部	H29以降、サポーター登録の保護者は26人。県外開催の生徒募集説明会に協力してもらえるなど実績を重ねている。また、R1には関東地区の卒業生交流会を開催。					
SNSの活用	本校のFacebookページを新たに立ち上げ、学校の様子をよりタイムリーに発信する。	-	□	□	□	□
総務部	H28開設。校内教育活動の様子や学校行事の告知、部活動大会結果などさまざまな情報発信ができています。H29には年間190本（最多）の記事をあげることができました。					

②広報活動の充実

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
オープンスクールの充実	△参加者のニーズに応じたプログラムを提供できるように内容を充実する。 ●参加者同士や在校生、教職員との交流や個別のカウンセリングなどの時間を充実させる。県外参加者には宿泊ができるツアーを提案する。	□	□	□	□	□
総務部・教務部	オープンスクールは年2回実施。生徒会執行部主催の交流会を開催。また、相談ブースを設置して保護者、中学校教員からの各種相談に応じた。宿泊を含むバスツアーは県教委主催で実施され、バスツアー参加者の出願もあった。					
県外学校説明会周知方法の改善	△より多くの県外の入学希望者への情報が届くようなダイレクトメールの仕組み等を検討する。 ●Faxや郵便での広報には限界がある。都市部の塾や在学生の出身中学校への訪問活動を充実させる。	-	-	-	-	-
教頭・主幹教諭・教務部	訪問活動等の実施はなし。H30、R1に地域みらい留学に参加し、広範囲に広報活動が展開できた。また、保護者のための相談会を東京、大阪で開催。					
交流部活動の充実	△小・中学生と吹奏楽部で交流演奏会を行うなど、各部の交流に取り組む。 ●近隣市町の中学校の生徒会と高校の生徒会の交流企画を行う。	-	-	-	-	-
各部顧問	実施なし。					
文化祭招待事業の実施	高校生の楽しそうな学校生活を間近で見ってもらうため、本校の文化祭に周辺地域の児童・生徒を招待する。	-	-	-	-	-
生徒指導部	実施なし。（体育祭に保育園児を呼んでいる）					
●教員対象学校見学会	●近隣市町の中学校の教員を対象に説明会、授業見学等を実施する。				-	-
教頭・主幹教諭・教務部	実施なし。					
●女子生徒の募集強化	●女子寮新設に向けて、女子生徒の募集を強化する。				□	□
教頭・主幹教諭・教務部	令和元年度より女子硬式野球部を創設。初年度14名が入部した。					

5) 多様な地域から集まる生徒の受け入れ体制の強化

① 学生寮の機能強化

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
運営主体の連携強化	△高校寮務部及び川本町役場との連絡会議を毎月1回開催する。 ●高校寮務部及び川本町役場との連絡会議を年間行事予定に組み込み、定期的に開催する。	<input type="checkbox"/>				
寮務部	未実施。情報共有されておらず、保護者の不信感につながるケースがあった。					
施設設備の機能強化	△江風寮の下駄箱整備や、その他の老朽化に対応する。 ●江風寮の老朽化した部分について随時手直しをする。また、寮生自身でも修理・改装する機会をもつ。	<input type="checkbox"/>				
寮務部	食堂の修理・改装を行った。					
充実した食事の提供	△栄養バランスを考え、また、周辺地域の食材（米、野菜など）を活用した食事を提供する。 ●調理員等に対して寮ごとに、対象に応じた食育講演会を行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-	-
寮務部	地域食材の活用はH27以降現在まで実施されている。食育講演会は未実施。					
学習支援・地域活動参加の強化	△塾や地域活動に参加する際の門限の許可制等を検討する。 ●学習交流センターに民間教材等を導入し寮生の自習時間を充実させる。また、江風寮生も学習交流センターの学習ルームや教材を使用できる環境を整える。	<input type="checkbox"/>				
寮務部	民間教材（公文）を導入したが、実施状況に課題がある。また、対象は学習交流センターのみとなっている。					
担当職員の配置 (学習交流センター)	△学習交流センター担当職員を継続して配置する。 ●学習交流センター担当職員を配置し、継続できる仕組みづくりを行う。	<input type="checkbox"/>				
寮務部	担当職員は継続して配置している。					

②地域の受け入れ体制の充実

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
まち親確保のための体制強化	△今後、県外生の増加が見込まれるため、より多くの「まち親」を確保し、生徒とのマッチングを行うための体制を強化する。 ●引き続きまち親の確保を続けるとともに、マッチング後のサポート体制の構築を図る。寮務部がまち親との関わりを持ちながら、まち親と県外生、まち親と学校間のより良い関係づくりを進める。	□	□	□	□	□
(総務部)	確保はできているが、年1回の交流会以外はまち親さんに任せている状態。寮務部が主体の取り組みは難しい（後援会主体が望ましい）。まち親、高校、後援会が担う役割の明確化が必要。					
△スクールバスの運行継続	△周辺地域からの通学を支援するため、引き続きスクールバスの4路線を維持する。	□	□	□		
事務部・総務部	各方面に向けて朝、夕の時間帯に運行し一定の成果があった。					
●通学にかかる支援強化	●周辺地域からの通学を支援するため、高校専用バスの運行継続に加え、江津・大田・温泉津・美郷方面からのバス通学については、後援会によるバス利用料の全額助成に取り組む。				□	□
(総務部)	実施している。特に後援会による通学助成制度は近隣地区（邑智、桜江）および、大田、江津、邑南方面からの入学者確保につながっている。					
△週末地域活動参加体制の整備	△県外生などが週末に商店街イベントやまち親の所属する自治会行事等に参加できる体制を整える。	□	□	□		
主幹教諭・地域系部活動	年々ボランティアで地域のイベントに関わろうとする生徒が増加している。					
△弁当・パン販売の実施継続	△昼休みに弁当・パンを販売する。	□	□	□	□	□
(総務部)	継続して販売。					

6) 魅力化推進体制の強化

①校内推進体制の整備

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
教職員研修の実施	△魅力化について知る研修やプレゼンテーション研修を実施する。 ●年度初めに魅力化事業についての全体研修を行う。例年4月に開催される町内小・中・高等学校および教育委員会、役場合同の懇親会に参加し、地域との関わりを積極的にもつ。	<input type="checkbox"/>				
教頭・主幹教諭	新任者オリエンテーションにてまちごとキャンパス構想を配布して説明。町内小・中・高等学校および教育委員会、役場合同の懇親会に参加。					
△他地域の学校・塾視察の実施	△学校や塾を視察し現状を把握する。	-	-	-		
教頭・主幹教諭	実施なし。					
全教職員による生徒募集の強化	全職員が名刺を持ち、積極的に生徒募集活動を実施する。	<input type="checkbox"/>				
教頭・主幹教諭	担当者以外の教職員も中学生対象の説明会に出かけるようにした。名刺の全員所持は途中でやめている。					

②外部機関との連携

事業名	内容 ●:H30追加（または修正） △:H30に削除	実施年度				
		□:実施 -:実施無し				
主担当	現状および成果と課題	27	28	29	30	1
効果的な推進体制の構築	△学校、後援会、コーディネーターの役割分担を明確にし、効果的な推進体制を定着させる。 ●学校、後援会、コーディネーター間で共通認識を持ち、目標の共有化を行う。H30年度から配置される主幹教諭を中心とした体制づくりを構築していく。また、各業務や取り組みに数値目標を設定し、判断基準などを明確にする。	<input type="checkbox"/>				
教頭・主幹教諭	コーディネーターの役割分担表を作成。					
魅力化コーディネーターの配置	△「情報発信・生徒募集」担当、「学習環境の充実」担当の2名を配置する。 ●継続して配置していく	<input type="checkbox"/>				
(教頭)	H30以降、授業に直接関与する場面が増加。					

第2章

第2次まちごとキャンパス構想

第2章 第1節 目指すビジョン

1) 目指すビジョン・グランドデザイン

高等学校は、後期中等教育による次世代育成の場である。教育活動や学校生活を通じて、生徒が自らの夢を実現する力や、現代社会を生き抜く上で必要な能力を育成することが求められる。

また、全国に先駆け少子化、高齢化が進む島根県の中でも、特にその傾向が顕著な県央地域に立地する本校は、地域との密接な関係のもとに成り立ち、地域経営における重要な役割を担っている。

本校の存在は、生徒・教職員の定住に伴うまちの賑わいづくりや経済活動の派生という直接効果のみならず、次代を担う生徒の活動と存在が、まちの未来を照らす希望の光となっている。生徒に対する高等学校教育や部活動の機会を提供することに加え、まちの希望を未来につなぐ役割を認識し、行政、企業、地域住民など、多様な主体とともに今後の学校運営を進めていくことが求められる。

本校が立地する地域には、江の川をはじめとする豊かな自然、江川太鼓や石見神楽などの伝統芸能、そして、地域を愛し、地域の未来をつくろうとする住民が存在する。これらの地域資源を学校運営に積極的に取り入れていくことが、結果として本校の魅力を高め、学校及び地域の活性化につながるものと考え、本校の目指すべきビジョンを次のように設定する。

地域を愛し、夢をかなえる若人の育成
～島根の中央からの挑戦～

島根中央高校グランドデザイン

地域を愛し、夢をかなえる若人の育成
～島根の中央からの挑戦～

ADMISSION POLICY

求める
生徒像

年齢や所属を超えて
多くの人との交流を
もちたい生徒

基礎的な学力や
向学への態度が
身についている生徒

地域の課題解決や
新しいコトにチャレンジ
してみたい生徒

学びを
支える
土壌

BACKGROUND

全国約100の中学校から集まる多様な文化的背景を持った生徒たち
習熟度に合わせた少人数指導体制
ICT環境の整備
高大連携の推進（島根県立大学/麻布大学等）
ユネスコスクールネットワーク
年齢や所属を超えた交流の場（卒業生/大学生/社会人等）
男女の区別なく、自由に組み合わせる制服
まち親制度のある寮生活
教育創生コンソーシアム島根中央（川本町/美郷町）
島根中央高校後援会
各コーディネーターの配置（探究学習/高大連携/地域協働/部活動/寮運営等）

探究手法習得プログラム

1年次

1年間じっくりと考え
最適なコースを選択する

育てる
課程

CURRICULUM POLICY

学ぶ力を育てる「総合的な探究の時間」
様々な進路に対応する「教科・科目」
個別に力を育てる「課外活動」

個人探究プログラム

2年次

共通科目とコース別科目を
深く学ぶ

特徴的な教科・科目

自然科学
コース

人文科学
コース

地域
デザイン
コース

物理
化学
生物

論理国語
古典探究

保育基礎
総合英語

ふるさと学
まちごとキャンパス学習
ビジネス基礎

物理/化学/生物
数学III/C

倫理

ソルフェージュ
素描
総合英語II

地域デザイン
マーケティング
フードデザイン

課外活動

大学受験力をつける「進学ゼミ」
目標達成への後押し「放課後・土曜補習」
人間力を育てる「部活動」
実践力を養う「地域教育プロジェクト」
個別に対応する「学習・進路指導」
生徒が学校を創る「生徒会活動」

進路探究プログラム

3年次

具体的な進路を決定し
目標の達成を目指す

知識定着型学習で進路を実現
共通テスト、筆記試験対応

探究型学習で進路を実現
総合型・推薦型選抜、面接試験に対応

GRADUATION POLICY

目指す
生徒像



自らうごく

自立

自分で調べ、考え、判断して行動する



共にあゆむ

共生

人と対話し、知恵と思いを共有する



未来をつくる

挑戦

最良の未来に向け、困難に立ち向かう

自ら考え、行動し、知恵や思いを共有しながら、
共に未来をつくっていく人財を育てます。

第2章 第2節 第2次まちごとキャンパス構想の役割と基本方針

1) 構想の役割

このたび策定した第2次まちごとキャンパス構想には次の役割を期待する。

- ・ 策定作業を通して、現在の本校の立ち位置と次なる5年間の進むべき方向性および取り組むべき具体的な事業内容を明らかにする
- ・ 本校の教職員および各事業にかかわる関係者がこの構想を共有することで、魅力化事業の円滑な推進と本校の教育目標達成に貢献する
- ・ 構想の各事業の具体的な取り組みの評価を適切な時期に行うことで、取り組み内容の修正を図るとともに、新たな事業策定の根拠資料とする

2) 基本方針

構想の策定はおおよそ以下のような考えに基づいて進めた。

- ・ 平成27年策定の第1次構想の成果を踏まえて、第2次構想へ一定の継続性を持たせること
- ・ 第1次構想の課題を踏まえて、第2次構想は適切な改善を加えたものとする
- ・ 教育目標、重点目標はすべての教育活動にかかわるものであるが、本構想では**特に地域との連携を必要とする教育活動に注目して**策定すること
- ・ 第1次構想と同じく、生徒募集につながる魅力化事業が計画された構想であること
- ・ 学習指導要領（平成30年3月公示）に示された「社会に開かれた教育課程」及び「県立高校魅力化ビジョン」（島根県教育委員会平成31年2月作成）の趣旨に則って策定すること
- ・ 具体的な取り組みの円滑な遂行のために、学校内の役割分担や学校外の支援者の役割をできるだけ明確にするとともに校内推進体制と校外支援体制を構築すること
- ・ 適切な評価を行うための、評価の方法と評価基準をできるだけ具体的に示すこと

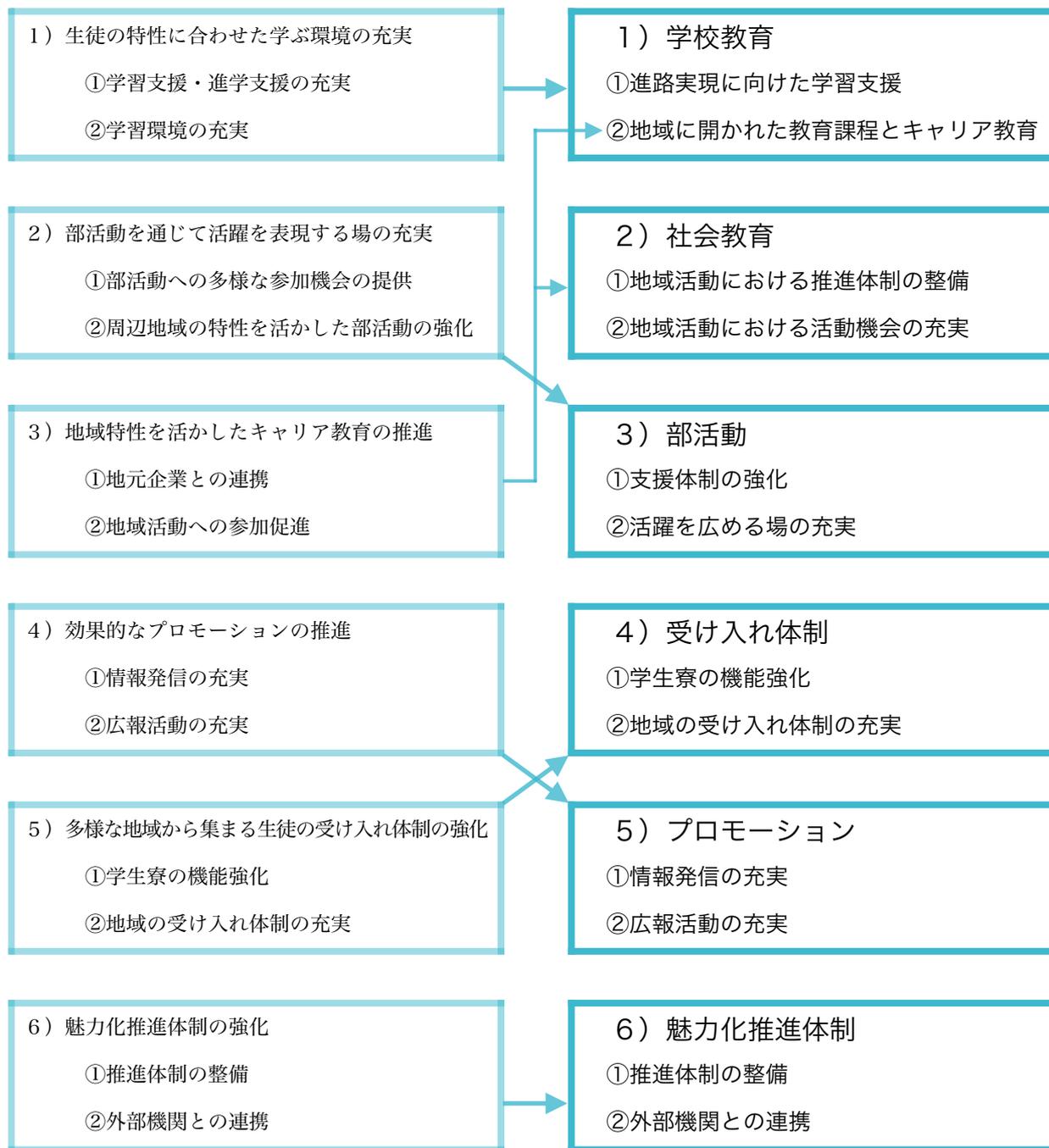
以上を踏まえて、次表にある第2次構想の6つの基本方針を定めた。

なお、今後5年間の魅力化事業を進めていく中で、適切な時期に各取り組みに対して行う評価結果および新たに地域と学校で構築される高校魅力化コンソーシアムの意思決定が十分に反映された構想となるように、取り組み内容に適宜修正を図る柔軟な姿勢が求められる。

<基本方針>

第1次

第2次



第2章 第3節 具体的取り組みと役割分担

1) 学校教育

①進路実現に向けた学習支援

【背景】

本校は普通科コース制・総合選択制という特性上、生徒の学力や進路希望は多様である。また、上級学校進学に対する地元の期待は高い。しかし、国公立大学進学者数は近年減少傾向にあり、上級学校進学を目指す者に対する支援は喫緊の課題である。

一方、就職についても、公務員や、中山間地域でニーズが高まっている医療・看護・福祉分野への就職を支援することによって、やがて地域のリーダーとして活躍する人材の輩出が期待されている。

【目的・内容】

生徒の多様な進路希望を実現するため、生徒個々の学力に応じたきめ細かい学習支援体制の充実、進学・就職等の目的に沿った専門性の高い学習指導体制の充実に取り組む。

このため、学校全体で少人数指導体制の利点を活かしたきめ細かい学習指導体制を維持しながら、国公立難関私立大学を目指す生徒を対象にした取り組み（進学ゼミ）強化を進め、上級学校進学に向けてモチベーションを高め、学力の向上を図る。

並行して、一般社会人、大学生等の外部講師の協力を得ながら、総合選抜型入試、公務員試験などさまざまな形態、難易度の試験に対応できる進学支援を進めて、進路目標実現を達成する。

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎※2	総合選抜型・学校推薦型選抜（IBAO・推薦入試）対策の強化	全学年希望者を対象に、外部講師を招いて指導を行う。プレゼンテーションや小論文等の試験で問われる指導に加え、自己整理等試験対策の下地になるサポートも行う。	入試合否 結果	進路指導部 魅力化CN※4 外部講師 後援会
2	○※3	進学ゼミの強化	進学ゼミ実施日とその科目を年間行事予定に加える。外部講師を招いて英数国を中心に日常の学習環境を整える。日常の学習環境整備、勉強合宿、予備校派遣等を通じて国公立大学・難関大学への進学を希望する生徒へのトータルサポートを行う。	生徒の 学習成績 入試合否 結果	進路指導部 魅力化CN 外部講師 後援会
3	○	公務員講座の開設	公務員模試に照準を合わせ松江の専門学校講師に依頼。3～4回程度。実施日は年間行事予定に加える。	生徒の 学習成績 入試合否 結果	進路指導部
4	○	大学生による学習サポート	定期試験前の日曜日に大学生による個別指導を年3回程度。今後は土日の2日間行う。	参加者の 満足度	進路指導部 魅力化CN

※2 新規取り組み

※3 第1次構想で実施された取り組み（継続）または現在取り組んでいる活動

※4 魅力化コーディネーター

②地域に開かれた教育課程とキャリア教育

【背景】

これまで本校では社会人力向上の取り組みとして、企業、地域住民等の協力を得ながら実践的なキャリア教育を推進してきた。「まちごとキャンパス学習」「ふるさと学」といった特色ある授業がその例である。いずれの取り組みも生徒の受け入れに積極的な企業、地域住民等の協力なしでは成立しないものであり、企業、地域住民の本校生徒に対する優しいまなざしが感じられるところである。また、企業等にとっても生徒と関わることが将来的に地元へ愛着を持つ人材を雇用することにつながり、生徒の卒業後の地元企業への就職も期待できる。

【目的・内容】

生徒は地域とつながりのある授業を通して、地域の良さや課題などの現状を学ぶ。また、実社会や実生活との関わりから、生徒自身が見出した課題を自分事として探究する中で、主体的に学びに向かう力や論理的思考力を育むことが期待される。この学びを活かし、企業などと連携して生徒の進路実現に向けた知識・技能・態度を育成する取り組みにもつなげることを目指す。

また体験的な学びと地域の方とのふれあいの中で、生徒は自己有用感、自己肯定感を増し、大きく成長する姿を見ることができるともこの授業の大きな特徴のひとつである。

これまで、教育課程内で進めてきた地域とつながりのある特色ある授業を、地域の協力支援を受けながら引き続き取り組んでいくことにより、県内出身者だけでなく県外から入学した生徒にとって、将来それぞれの地域のリーダーとして活躍するために必要な資質と能力を育成することがこの取り組みのねらいである。

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	生徒と地元社会人との交流	地域への思いをもって仕事や活動をしている社会人や大学生との交流の場を設定する。 (総合的な探究の時間など)	実施の有無	主幹教諭 魅力化CN
2	○	企業と連携した取り組み	生徒の進路希望に応じたキャリア学習を企業と連携しながら行う。また、生徒が企業の魅力を知る機会など、生徒と企業をつなぐ場の創出に取り組む。 (総合的な探究の時間、まちごとキャンパス学習、地域デザインなどで実施)	担当者 による 振り返り	主幹教諭 進路指導部 科目担当 魅力化CN
3	○	地域をフィールドとした探究学習	探究学習の基礎的な考え方を身につけた上で、自ら課題を見つけ、地域をフィールドにして課題を解決する能力を育成する。 (総合的な探究の時間、ふるさと学などで実施)	科目の 評価	主幹教諭 科目担当 魅力化CN
4	◎	インターンシップ	将来の志望職種を考えるためのインターンシップの実施。町内だけでなく他地域も含め、できる限り生徒の希望に則したかたちで実施する。インターンシップでの経験を進路選択に活用していく。 (総合的な探究の時間など)	実施の有無	主幹教諭 魅力化CN

2) 社会教育

【背景】

本校周辺地域は豊かな自然、歴史・伝統、文化、産業があり、かつ生徒を温かく支え育む地域である。小学校、中学校ではこの地域にある地域資源を活用してふるさと教育が進められているところであるが、本校でも地域での実体験や多様な人々との交流を通して地域とつながりを持った学びを進めていくことが重要であり、その学びが生徒にとって将来の自らの人生を切り拓くための「生きる力」につながる。

このような学びを進めていく場は教育課程内の一部の授業展開にとどまらず、地域社会の多くの場に存在する。生徒が学校内の閉じた教育環境のみで学習するのではなく、広く地域社会の場に自らを置き、多くの学びを経験することができるような教育環境を準備することが必要である。

【目的・内容】

地域社会で体験する場、学ぶ場が多くあることを生徒に情報提供する必要があり、さまざまなプログラムの紹介を生徒に対して継続的に行う。また、地域での活動内容についても地域の小学校、中学校や社会教育機関と連携をとって、保小中高の連続性を意識しながら、さまざまな地域とつながりを持った学びを進めていくことが重要である。そのためには、本校と関係機関が密につながることが必要であり、学校と地域を結ぶコーディネーターの役割が重要となる。

①地域活動における推進体制の整備

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	○	地域活動の参加機会の拡大	川本町・美郷町・江津市桜江町等において、担当者間の連携を強化することにより、多様な地域活動の機会を提供する。同時に、地域活動の情報を生徒・地域・高校が共有し、広く周知する仕組みを整える。	地域活動への参加機会数	地域活動担当 魅力化CN 社会教育主事
2	○	活動へ参加する生徒へのサポート	地域活動の受け入れ先や校内での調整を行い、生徒が安心、安全に参加できる環境を整えることにより、生徒の活動参加につなげる。	地域活動への参加回数	地域活動担当 魅力化CN
3	◎	地域活動の経験活用	ボランティア、イベントなど生徒が参加した活動をキャリアパスポートに記録し、その実績を生徒自身が活用できるようなしくみをつくる。	活動実績の記録と蓄積状況	地域活動担当 進路指導部

※従来**地域系部活動**（しまん-Chu♥！活動）と呼んでいたものは今後、**地域活動**に含む。

②地域活動における活動機会の充実

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	○	生徒が主体となった地域活動	川本町教育委員会と連携し、生徒が町民を対象とした社会教育事業の企画や運営を行う。	企画数	地域活動担当 魅力化CN 社会教育主事
2	◎	部活動単位での地域活動への参加	部活動単位で地域行事（スポーツイベント、祭り、講演会、交流会など）に参加する機会を作る。	実施 部活動 延べ回数	地域活動担当 各部活動顧問 魅力化CN
3	○	マイプロジェクト参加への支援	マイプロジェクト参加への呼びかけや参加する生徒への伴走を行う。	参加プロジ ェクト数	主幹教諭 地域活動担当 クラス担任 魅力化CN
4	◎	自治会との連携による地域課題への対応	人口減少、高齢化に伴う地域の課題に対し、自治会と生徒が協力し解決に向けて取り組む。	参加活動数	主幹教諭 地域活動担当 魅力化CN
5	○	保・小・中・高が連携した交流活動	教育委員会が主催する社会教育事業等を活用し、保・小・中・高が連携した交流活動を提供する。	参加活動数	地域活動担当 魅力化CN 社会教育主事
6	○	大学生や外国人（留学生など）との交流活動	大学生や外国人の方がさまざまな目的で来町する機会を活用し、生徒と交流できる機会を作る。	参加活動数	主幹教諭 地域活動担当 魅力化CN
7	◎	人財定住助成金事業の活用	町が実施する人財定住助成金事業を活用し、多くの生徒が自分計画書を発表できるよう支援する。	活用者数	進路指導部 外部講師

3) 部活動

【背景】

本校へ入学する生徒の志望動機の一つに「高校入学後に取り組みたい部活動があること」を挙げる生徒が多く存在している。川本高校時代に全国大会で活躍し、川本町が「音楽の里」を宣言するきっかけとなった伝統ある吹奏楽部、くにびき国体を契機に創部され、邑智高校の伝統を引き継いで全国の舞台で活躍を続けるカヌー部、川本町の協力で町民球場、室内練習場など練習環境が整っている男子硬式野球部、令和元年度に創部し、各方面から注目を浴びている女子硬式野球部など、多くの部活動が生徒にとって充実した高校生活を送るための大切な存在であることは間違いない。また、保護者、各部の卒業生、地域住民、中学生にとっても本校の部活動は意味のある存在である。

【目的・内容】

それぞれの部活動の活性化を図り、生徒の部活動加入率の維持と部活動に対する満足度の向上を目指していく。そのために、教職員だけでなく外部指導員（部活動指導員、地域指導者）の配置、後援会からの支援活用など、部活動指導体制の整備、充実を今まで以上に進めていく必要がある。

また、中学校との交流・体験活動などを通して、本校の部活動のPRと安定した部活動運営をねらいとする。

①支援体制の強化

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	外部資金の確保	クラウドファンディングや助成金・補助金を活用し、部活動で使用する設備・備品の充実や活動の強化を図る。	充足度	生徒指導部 後援会 魅力化CN
2	○	外部指導員の活用	専門的知識・経験を有した外部指導員等の活用を行うことで、部活動成績・生徒保護者の満足度の向上につなげる。	生徒・ 保護者 満足度	生徒指導部 各部活動顧問 後援会

②活躍を広める場の充実

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	適正な部活動数を維持する。また、近隣中学生の活動機会を広げるために高校の部活動を受け皿にする。	部活動 加入率	生徒指導部 各部活動顧問 後援会
2	○	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	近隣中学校に設置されている部活動と、合同練習やイベントなどで連携する。生徒による部活動の魅力PR活動を実施する。	合同練習 等の実施 部活動数	各部活動顧問

4) 受け入れ体制

① 学生寮の機能強化

【背景】

県外中学校からの入学生増加に伴い入寮希望者も増加しており、令和2年度の寮生徒数は122名（R2.12月現在）で、全校生徒の約半数である。

寮では規則正しい規律ある生活が求められ、自宅にはない、いわゆる制約ある生活を通して生徒の自立、自律する力が伸長している面がある。また、プライベートスペースがほとんどない空間が、共同生活をともに送る仲間との強い絆をつくり上げていることも寮生活の良いところの一つでもある。

しかしながら、寮生徒数の増加と施設の老朽化などが招くさまざまな問題によって生活しづらい状況が発生していることも否定できない。生徒の安心、安全な寮生活のために引き続き寮機能の整備強化の取り組みが求められる。

【目的・内容】

江風寮と学習交流センターおよび新たに建設された「まちごと魅力化センター C Pieces+（シーピース）」の3つの運営で、運営主体である本校と町、それぞれの関係職員や委託業者など寮に関係する者が、十分意思の疎通が図れる連携体制を整えることが重要である。また、保護者に対してしっかりと情報発信をするとともに、在籍している生徒による自治運営の力を向上させることができれば理想的である。

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	施設運営の連携	各寮の運営について協議体※5を設置し、会議を実施する。また、保護者との連携に向け、寮生保護者会などを通じた情報発信を積極的に行う。	開催回数	寮務部 後援会 魅力化CN
2	◎	寮生による自治運営	寮生活を通じた人間形成、課題解決力の向上、充実した生活環境維持に向け「自治運営」の仕組みをつくる。	生徒の取 組み状況	寮務部 後援会 魅力化CN
3	◎	寮生によるイベント実施	寮生がイベントを企画する。また、3つの寮合同のイベント実施について検討していく。	実施回数	寮務部 後援会 魅力化CN
4	◎	食事の充実	定期的な食事アンケートを実施し、生徒のニーズ把握と食事の充実を図る。各学期に1回連続する土日、「川本の食を楽しむ日」をつくり、川本での食事を楽しむ場を充実させる。	食事アン ケート	寮務部 後援会 魅力化CN
5	○	地域活動に参加しやすい環境づくり	地域活動、伝統芸能などへの参加を促すため、情報の周知、参加への呼びかけ、門限の柔軟な対応などを行い環境を整える。	参加生徒数	寮務部 後援会 魅力化CN

※5 協議体（寮務部、ハウスマスター、主任調理員、寮コーディネーター）

②地域の受け入れ体制の充実

【背景】

現在、後援会の支援により、美郷、邑南、大田、江津各方面からの登下校のバス運賃が無料となる助成制度が実施されている。

また、親元を離れて寮生活を送る生徒がけがや急病、またはインフルエンザ等の感染症に罹患した場合などの緊急時に対応してもらう「まち親」を町民の方にボランティアでお願いしている。

生徒募集において県外および県内広域から多くの生徒を受け入れていくためには、この通学助成制度やスクールバスの運行、緊急時のサポート体制の充実が引き続き必要である。

【目的・内容】

生徒がけがや急病、またはインフルエンザ等の感染症に罹患した場合などの緊急時の対処方法については、本校だけでなく県内の寮を設置している県立高校でも積年の課題である。本校のまち親制度については、あくまでもボランティアとして携わってもらっているのだが、引き続き後援会と連携しながら維持していく必要がある。

また、通学費助成制度についても同様に後援会へ継続を要望していく。

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	まち親確保のための取り組みの充実	高校、後援会の役割を明確化する。まち親募集活動のしくみをつくり、まち親が担う役割を明確にする。また、まち親だけを集め、情報交換や役割についての確認などを行う「まち親会」を実施する。	まち親登録数	総務部 後援会 魅力化CN
2	○	通学に関わる支援	通学に便利なバスダイヤの継続を要望し、スクールバスを適切に運行する。	通学可能圏域	総務部 後援会

5) プロモーション

【背景】

生徒募集におけるプロモーション活動の役割は大きい。平成25年度から7年間でさまざまな生徒募集活動を行ってきたが、特に注力したのがプロモーション活動である。この活動により、島根県内外の多くの方に本校を知ってもらう機会が増え、結果として入学者数増に結びついた。また、プロモーション活動を通して教職員・後援会・魅力化コーディネーターは本校の魅力を整理・再確認できた。しかしながら県内地域の中学校教員・中学生・保護者・住民に対して本校の魅力を感じてもらうための効果的な取り組みができていないという現状もある。

【目的・内容】

本校の魅力を知ってもらうための情報発信や県内外での広報活動は今後も継続実施する必要がある。情報発信については、校内教員と魅力化コーディネーターが協力し、さまざまな出来事ができる限りタイムリーに行う。また広報活動の際には、ターゲットを意識しながら、本校の魅力がより正確に伝わるよう意識する。島根県教育委員会や一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム、都市部の塾関係者、卒業生や保護者とも手を取り合いながら行っていく。さまざまなプロモーション活動を行う中で、本校の特色の一つであるユネスコスクールについてもPRしていく。

またホームページ、SNS、動画、紙媒体の統一感を持たせ、それぞれの役割を決めて運用する。

①情報発信の充実

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	○	SNSによる情報発信	Facebookによって、さまざまな教育活動をタイムリーに発信する。Twitter、Instagramなどの活用も検討。	更新回数	総務部 魅力化CN
2	○	ホームページによる情報発信	ホームページによって、さまざまな教育活動を発信する。SNSとの差別化をはかる。	アクセス数	総務部 魅力化CN
3	○	学校だよりによる情報発信	学校だより（「島根中央高校だより」）を発行し、中学校、近隣自治体住民、保護者へ配付する。また、中学校へは教員が持参し、情報交換を行う。	発行回数	総務部 魅力化CN
4	○	自治体広報誌による情報発信	広報かわもとに学校だよりを掲載する。	発行回数	総務部

②広報活動の充実

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	○	学校案内パンフレットの作成	ホームページへの誘導媒体とし、高校生活がイメージできるような内容にする。	担当者による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N
2	○	イメージ映像の作成	高校生活のイメージが伝わる内容にする。	担当者による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N
3	○	オープンスクールの充実	在校生を運営スタッフとして参加させて、生徒目線で高校の良さを中学生、保護者に伝える機会をつくる。保護者向け個別相談ブースを設定する。	担当者による 振り返り	教務部 後援会 魅力化C N
4	○	県外での説明会・相談会参加・開催	県教委指定「しまね留学推進校」として、引き続き県外生徒募集を積極的に推進するために、県外で開催される募集事業に参加する。また、県外での単独説明会・保護者相談会も継続する。	参加・ 開催回数	主幹教諭 後援会 魅力化C N
5	○	塾関係者との連携による継続的な生徒募集活動の実施	都市部の塾関係者との連携を継続的に図りながら、県外生徒募集活動の裾野を広げる。またそのために相互に情報共有を行う。	担当者による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N
6	◎	近隣小中学生保護者を対象とした説明会の開催	川本・美郷・桜江の小・中学生保護者を対象に各地域で説明会を実施し、ニーズを把握する。	開催回数	主幹教諭 後援会 魅力化C N
7	◎	入試説明会の開催	中学3年生とその保護者を対象にした入試説明会を開催し、進路選択に必要な情報を伝えたり、個別相談ブースを設定する。	開催回数	教務部 後援会 魅力化C N
8	◎	オンライン説明会の開催	オンラインでの説明会を適時実施することで、より多くの方に本校を知っていただく機会を増やす。	開催回数	主幹教諭 後援会 魅力化C N

6) 魅力化推進体制

【背景】

第1次まちごとキャンパス構想の推進体制計画では、魅力化事業の6つの柱である「学力向上」「部活動強化」「社会人力育成」「効果的なプロモーション」「受け入れ体制」「推進体制」のそれぞれの関係ある分掌から1名ずつ委員を集めて「企画スタッフ会」を設置し、月1回程度の協議を行うこととしていた。しかしながら、教職員の業務多忙により定期的な会合を開くことは困難であり、実際は魅力化企画スタッフ会の長である教頭（平成30年度からは主幹教諭）が、その都度、関係分掌の担当者やコーディネーターと連絡調整を行い、それぞれの場面で対応してきたのが実態である。

また、人事異動による教職員の入れ替わりが激しく、魅力化事業の必要性や高校存続の危機感についての教職員間の認識にも濃淡があり、教職員全体でまちごとキャンパス構想が十分に共有されていたとはいえない。

しかしながら、町、後援会による強力なバックアップ体制が本校を支えていることは全ての教職員が知るところであり、本校（特に魅力化担当者）と町、後援会、魅力化コーディネーターとの連携、結びつきは年々強くなっている。

【目的・内容】

地域に必要な高校として今後も魅力化事業をより効果的、継続的に進めていくために、すべての教職員が魅力化事業の目的と内容について十分理解を深めることももちろん重要であるが、まずはその中心となる校内の魅力化事業担当者（主幹教諭）、後援会、魅力化コーディネーターの3者が役割分担を明確にしつつ、しっかりと連携しながらここまでの第3節で述べた具体的な取り組みを一つひとつ達成していくことが重要である。

また、高校魅力化コンソーシアムで立案実施されていく取り組みはこのまちごとキャンパス構想を下地に進んでいくこととなるため、推進体制を担う魅力化事業担当者と後援会、魅力化コーディネーターの役割はますます重要となってくる。

①推進体制の整備

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	○	効果的な推進体制の構築	高校、後援会、魅力化コーディネーター、教育委員会（社会教育主事）、地域住民間で共通認識を持ち、目標の共有化と役割分担の明確化を行う。	担当者 による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N
2	◎	各事業の評価	1次～3次の段階を踏んで検証を実施する。 1次（担当者間検証） 2次（事務局間検証） 3次（コンソーシアムの理事会）	総合評価	主幹教諭 後援会 魅力化C N
3	○	職員研修の実施	年間数回、魅力化事業の進捗状況報告と全体研修を行う。	実施回数	主幹教諭
4	◎	魅力化コーディネーターの継続的な配置	高校魅力化を行っていく上で各事業に携わる魅力化コーディネーターの継続的な配置を要望する。	担当者 による 振り返り	主幹教諭 後援会

②外部機関との連携

【具体的な事業】

番号	新規 継続	事業名	内容および改善点	評価 方法	担当
1	◎	高校に関わる人たちとの関係の継続	卒業生を含め、まち親、地域住民など高校周辺あるいは関わりがある県外の方と関係を継続的に保持する。	担当者による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N
2	○	県外サポーター制度の継続実施	県外サポーターの登録をしていただき、生徒募集時のPR活動やイベント等の支援体制を構築する。	県外サポーターに 登録した 人数	主幹教諭 後援会 魅力化C N
3	◎	高校を取り巻くネットワークの構築 (大学や塾などの関係機関)	大学や塾などの学校外で関係する機関と連携しながら、高校の支援体制の枠組みを広げる。	担当者による 振り返り	主幹教諭 後援会 魅力化C N

第2章 第4節 推進体制と具体的取り組みの評価

1) 高校魅力化コンソーシアム

平成31年2月に島根県教育委員会によって策定された「県立高校魅力化ビジョン」には、島根県の目指す魅力ある高校づくりが示されている。その中で、高校魅力化においては、生徒・保護者、教職員、地域住民等との主体的な対話を通して具体的な取り組みが進められていくことが大切であると述べられている。

これまで、本校はさまざまな形で地域と連携・協働した教育活動に取り組んできた。その結果、生徒の自己肯定感、自己有用感や主体的に学習活動に向かう姿勢の醸成、高校や地域の活性化など大きな効果を生み出すことができた。これらの取り組みの成果をベースに今後もさらに魅力ある高校づくりに邁進していかなければならない。

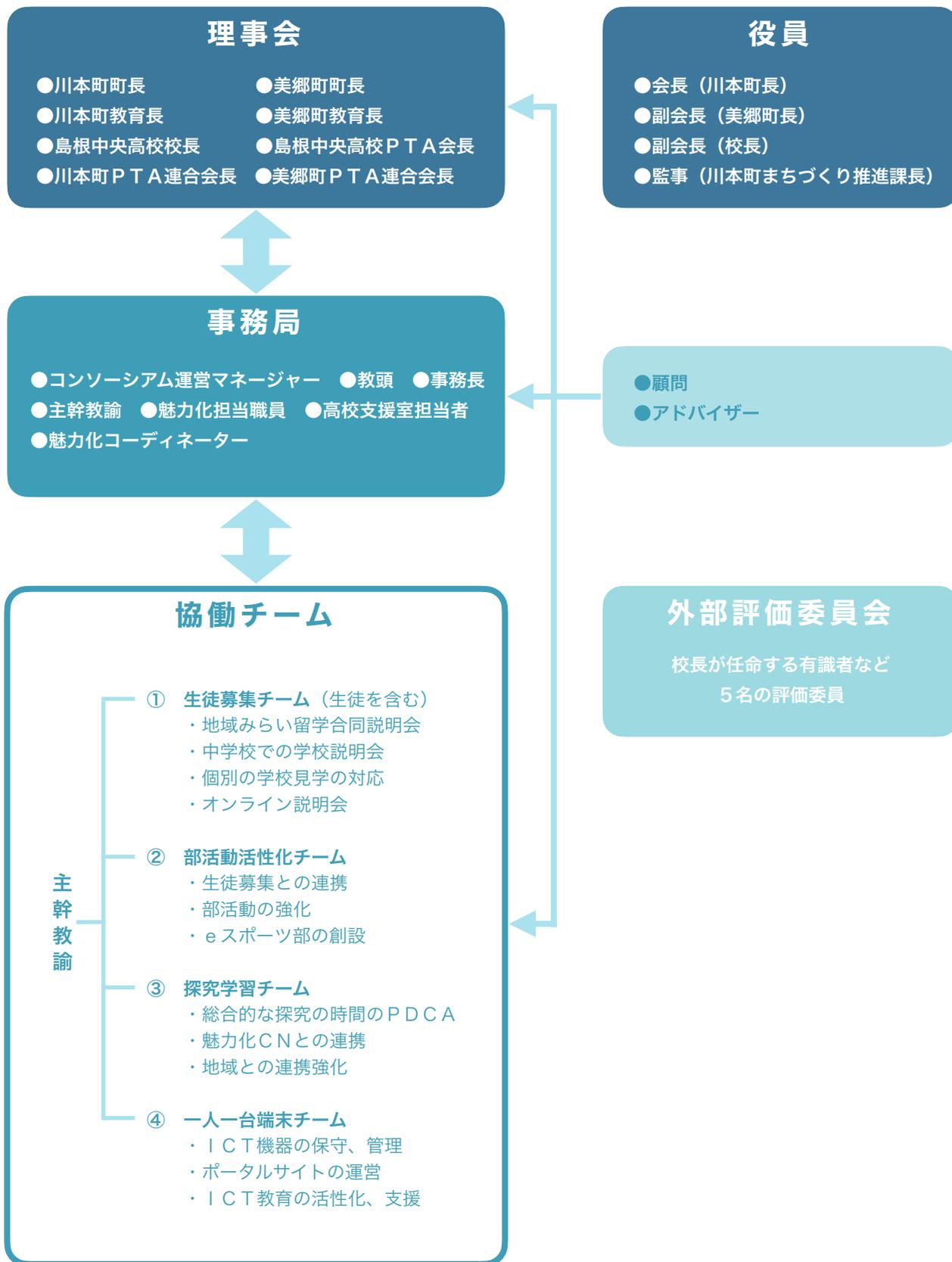
その推進体制の一つの形が、教職員、生徒・保護者、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、関係団体など多様な立場にある人々がそれぞれに主体的に取り組める協働体制である。島根県教育委員会策定の魅力化ビジョンにおいては、この協働体制を「高校魅力化コンソーシアム」と称している。

この度、設立される島根中央高校魅力化コンソーシアムの目的は、規約において「高校のビジョン、教育目標に基づく教育活動において、地域や社会に貢献する人材の育成と生徒により良い学びを提供するための環境づくりを目指して、自治体、企業、教育機関等の地域の多様な関係者と、保護者、教職員、卒業生等の島根中央高等学校関係者とが対話を行いながら協働体制を構築することにより、地域と一体となって子どもたちを育む『地域とともにある学校』を実現すること」と定めている。また、コンソーシアムの事業のひとつに島根中央高等学校「まちごとキャンパス構想」に基づく魅力的な学校づくりを進めていくことがある。

まちごとキャンパス構想に記述された具体的取り組みは、事務局を中心に企画立案されたものである。その方針と内容がコンソーシアム理事会によって審議され、理事会からの助言と承認を受けつつ、協働チーム各担当によって関係者と協働しながら具体的な取り組みが進められることになる。さらに取り組みの策定から実行までの各段階は、地域内の関係するさまざまな立場の人々の協力を得た協働体制によって進められていくことになる。

取り組み推進にあたって重要な役割を果たすのは、主幹教諭、後援会事務局、コンソーシアム運営マネージャー、魅力化コーディネーターを中心とした事務局である。事務局がまちごとキャンパス構想の具体的取り組みの企画立案に携わるとともに、取り組みを推進する協働チームと地域関係者と連絡調整をとりながら目標の共有化と役割分担の明確化を図り、協働体制を構築、継続するための中心的役割を担う。さらに、単年度ごとに推進した取り組みの評価検証を事務局と協働チームにおいて実施し、コンソーシアム理事会の助言と承認を継続して受けながら、取り組み内容の修正と次年度以降の取り組み推進に繋げていくこととなる。

<教育創生コンソーシアム島根中央 組織図>



2) 目標および評価基準と評価方法

①学校教育

①進路実現に向けた学習支援

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	総合選抜型・学校推薦型選抜（旧AO・推薦入試）対策の強化	志望大学、短大に合格できたか	入試合否結果
		3 受験者の5割以上が合格 2 受験者の3割以上5割未満が合格 1 受験者の3割未満が合格	
2	進学ゼミの強化	対外模試、学力テストの成績が向上したか 国公立大学、難関私立大学に合格できたか	(1) 生徒の学習成績 (2) 入試合否結果
		(1) 生徒の学習成績 3 5割以上の生徒が成績向上 2 3割以上5割未満の生徒が成績向上 1 3割未満の生徒が成績向上 (2) 入試合否結果 3 国公立大学、難関私立大学合格者数が10名以上 2 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名以上10名未満 1 国公立大学、難関私立大学合格者数が5名未満	
3	公務員講座の開設	公務員模試の成績結果が伸長したか 公務員試験に合格できたか	(1) 生徒の学習成績 (2) 入試合否結果
		(1) 生徒の学習成績 3 5割以上の生徒が成績向上 2 3割以上5割未満の生徒が成績向上 1 3割未満の生徒が成績向上 (2) 入試合否結果 3 公務員志望者5割以上が合格 2 公務員志望者3割以上5割未満が合格 1 公務員志望者3割未満が合格	
4	大学生による学習サポート	積極的かつ自発的に学習に取り組むことができたか	参加者の満足度（振り返りアンケート）
		3 参加者の満足率が8割以上 2 参加者の満足率が5割以上8割未満 1 参加者の満足率が5割未満	

②地域に開かれた教育課程とキャリア教育

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	生徒と地元社会人との交流	生徒と地元社会人との交流会が実施できたか	実施の有無
		2 実施できた 1 実施できなかった	
2	企業と連携した取り組み	企業と連携したキャリア学習が行えたか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	
3	地域をフィールドとした探究学習	主体的に学習に取り組み、探究する態度を身につけることができたか	科目の評価
		3 ほとんどの生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた	
		2 半分以上の生徒が主体的に取り組み、探究する態度を身につけることができた	
		1 良い態度で取り組む生徒が少なく、探究する態度を身につけることができなかった	
4	インターンシップ	志望職種を考えるためのインターンシップが実施できたか	実施の有無
		2 実施できた 1 実施できなかった	

②社会教育

①地域活動における推進体制の整備

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	地域活動の参加機会の拡大	参加機会を拡大できたか	地域活動への参加機会数
		3 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることが大いにできた 2 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることがまあまあできた 1 担当者間で連携し、参加機会数の拡大につなげることがあまりできなかった	
2	活動へ参加する生徒へのサポート	関係者の調整・サポートが生徒の活動参加につながったか	地域活動への参加回数
		3 活動機会のほぼ全てについて調整・サポートができ、生徒の地域活動参加につながった 2 活動機会の半数程度について調整・サポートができ、生徒の地域活動参加につながった 1 活動機会の半数以下しか調整・サポートができず、生徒の地域活動参加につながらなかった	
3	地域活動の経験活用	地域活動に参加した生徒の記録が蓄積されているか	活動の記録と蓄積状況
		3 キャリアパスポートを利用して地域活動について全て記録しており、いつでも振り返ることができる 2 キャリアパスポートを利用して地域活動についてほしい記録しており、振り返ることができる 1 キャリアパスポートを利用して地域活動についてほとんど記録、蓄積することができなかった	

②地域活動における活動機会の充実

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	生徒が主体となった地域連携活動	生徒が主体となって企画ができたか	企画数
		3 生徒が主体となった企画が複数あった 2 生徒が主体となった企画があった 1 生徒が主体となった企画はなかった	
2	部活動単位での地域活動への参加	部活動単位で地域活動に参加したか	参加部活動延べ回数
		3 年に11団体以上参加した 2 年に7～10団体参加した 1 年に6団体以下参加した	
3	マイプロジェクト参加への支援	生徒が参加したか	参加プロジェクト数
		3 参加プロジェクト数が3つ以上あった 2 参加プロジェクト数が1～2つあった 1 参加プロジェクトがなかった	
4	自治会との連携による地域課題への対応	地域課題の解決に取り組んだか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	
5	保・小・中・高が連携した交流活動	交流活動に参加したか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	
6	大学生や外国人（留学生など）との交流活動	大学生や外国人との交流活動に参加したか	参加活動数
		3 生徒が参加した活動数が3つ以上あった 2 生徒が参加した活動数が1～2つあった 1 生徒が参加した活動がなかった	
7	人財定住助成金事業の活動	事業を活用する生徒がいたか	活用者数
		3 10名以上が事業に申請した 2 10名未満が事業に申請した 1 申請者がいなかった （申請者のうち3名程度がUターンすることを目標とする）	

③部活動

①支援体制の強化

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	外部資金の確保	設備や備品等が充足できているか（顧問・指導者評価）	充足度
		3 設備や備品等が8割以上充足できた 2 5割以上充足できた 1 5割未満充足できた	
2	外部指導員の活用	生徒・保護者が満足しているか	生徒・保護者満足度
		部活動に対して肯定的な回答の割合 （1）生徒の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満 （2）保護者の満足度 3 肯定的な回答が9割以上 2 肯定的な回答が8割以上9割未満 1 肯定的な回答が8割未満	

②活躍を広める場の充実

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	適正な部活動数を維持し、生徒に提供できたか	部活動加入率
		3 部活動加入率9割以上 2 部活動加入率8割以上9割未満 1 部活動加入率8割未満	
2	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	合同練習や交流会を実施できたか	合同練習等の実施部活動数
		3 年に8割以上の団体が実施した 2 年に5割以上の団体が実施した 1 年に5割未満の団体が実施した （近隣中学校に設置されている部活動数に対する割合）	

④受け入れ体制

①学生寮の機能強化

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	施設運営の連携	施設の運営にあたり、各寮の運営協議体で会議が開催されているか	開催回数
		3 年に3回開催されている 2 年に2回開催されている 1 年に1回開催されている	
2	寮生による自治運営	寮長会議が定期的に開催されているか	生徒の取り組み状況
		3 月1回開催されている 2 隔月に開催されている 1 学期に1回開催されている	
3	寮生によるイベント実施	寮生企画のイベントが実施できたか	実施回数
		3 寮生企画のイベントが各寮年に3回以上 2 寮生企画のイベントが各寮年に2回以上 1 寮生企画のイベントが各寮年に1回以上	
4	食事の充実	食事の満足度	食事アンケート
		3 肯定的に答えた人が6割以上 2 肯定的に答えた人が4割以上6割未満 1 肯定的に答えた人が4割未満	
5	地域活動に参加しやすい環境づくり	教育課程外の活動（地域活動、ボランティア活動など）に多くの寮生が参加出来ているか	参加生徒の割合
		3 年に1回参加した生徒が全寮生の5割以上 2 年に1回参加した生徒が全寮生の3割以上5割未満 1 年に1回参加した生徒が全寮生の3割未満	

②地域の受け入れ体制の充実

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	まち親確保のための取り組みの充実	まち親が必要数確保できているか	まち親登録数
		3 必要数以上のまち親が確保されている 2 必要数のまち親が確保されている 1 まち親数が不足している	
2	通学に関わる支援	通学可能圏域が維持されているか	通学可能圏域
		3 公共交通機関により通学可能圏域が維持されている 2 公共交通機関とスクールバスの利用により通学可能圏域が維持されている 1 通学可能圏域が縮小している	

⑤プロモーション

①情報発信の充実

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	SNSによる情報発信	さまざまな教育活動をタイムリーに発信したか	更新回数
		3 更新回数が年間130回以上（3回/週） 2 更新回数が年間90回以上（2回/週） 1 更新回数が年間50回以下（1回/週）	
2	ホームページによる情報発信	さまざまな教育活動をその都度分かりやすく発信できたか	アクセス数（H27～R1年度の平均アクセス数156）
		3 アクセス数が180以上（1日あたり） 2 アクセス数が130以上180未満（1日あたり） 1 アクセス数が130未満（1日あたり）	
3	学校だよりによる情報発信	学校だよりを年4～6回発行できたか	発行回数
		3 発行回数が年間4～6回 2 発行回数が年間2～3回 1 発行回数が年間1回以下	
4	自治体広報誌による情報発信	広報かわもとに毎月掲載できたか	発行回数
		3 毎月掲載できた 2 2ヶ月に1回程度掲載できた 1 掲載がほとんどできなかった	

②広報活動の充実

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	学校パンフレットの作成	生徒・保護者の知りたいことに応えられていたか	担当者による振り返り
		3 適切だった 2 改善すべき点があった 1 大幅に改善すべき点があった	
2	イメージ映像の作成	様々な場面で活用するのに適していたか	担当者による振り返り
		3 適切だった 2 改善すべき点があった 1 大幅に改善すべき点があった	
3	オープンスクールの充実	参加者にとって魅力的な内容になっているか 適切な情報を参加者に伝えることができたか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	
4	県外での説明会・相談会の参加・開催	継続的に参加できる体制（人・予算）が作れているか	参加・開催回数
		3 参加・開催した説明会等が計画に対して8割以上 2 参加・開催した説明会等が計画に対して3割以上8割未満 1 参加・開催した説明会等が計画に対して3割未満	
5	塾関係者との連携による継続的な生徒募集活動の実施	塾関係者と連携・情報共有を行いながら県外生徒募集活動を実施したか	担当者による振り返り
		担当者間での相互評価に代える	
6	近隣小中学生保護者を対象とした説明会の開催	年1回、川本・美郷・桜江地区で説明会を計画・開催し、保護者のニーズ把握ができたか	開催回数
		2 全ての地区で開催できた 1 全く開催できなかった	
7	入試説明会の開催	入試説明会を計画・開催し、適切な情報を生徒・保護者に伝えることができたか	開催回数
		2 計画・開催できた 1 計画・開催できなかった	
8	オンライン説明会の計画・開催	オンライン説明会を計画・開催し、適切な情報を生徒・保護者に伝えることができたか	開催回数
		2 計画・開催できた 1 計画・開催できなかった	

⑥魅力化推進体制

①推進体制の整備

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	効果的な推進体制の構築	高校、後援会、魅力化コーディネーター、教育委員会（社会教育主事）、地域住民間で共通認識を持ち、目標の共有化と役割分担の明確化を行われたか	担当者による振り返り
		3 共通認識を持ち、目標の共有・役割分担の明確化ができている 2 共通認識を持ち、目標の共有はできている 1 共通認識が持っていない	
2	各事業の評価	評価が適切に行われたか	総合評価
		3 3次審査ができた 2 2次審査ができた 1 1次審査ができた	
3	職員研修の実施	年間数回、魅力化事業の進捗状況報告と全体研修が行われたか	実施回数
		3 進捗報告と全体研修が数回できた 2 進捗報告と全体研修が1回できた 1 進捗報告と全体研修ができなかった	
4	魅力化コーディネーターの継続的な配置	各事業に携わるコーディネーターの継続的な配置をすることができたか	担当者による振り返り
		3 各事業に携わるコーディネーターが配置されている 2 おおむね配置されている 1 一部の取り組みは教員のみ	

②外部機関との連携

番号	事業名	目標	評価方法
		評価基準（3良い 2ふつう 1悪い）	
1	高校に関わる人たちとの関係の継続	卒業生を含め、まち親、地域住民など高校周辺あるいは関わりがある県外の方と関係を継続的に保持できているか	担当者による振り返り
		3 多くの人と関係を継続的に保持できている 2 一部の人と関係を継続的に保持できている 1 関係を継続的に保持できていない	
2	県外サポーター制度の継続実施	県外サポーターへ登録をし、生徒募集イベント時に保護者の方がPRのサポーターで参加してくれたか	県外サポーターに登録した人数
		3 保護者の方がサポーターに登録し、生徒募集イベントへの積極的な参加があった 2 保護者の方がサポーターに登録したが、生徒募集イベントへの参加はなかった 1 保護者の方がサポーターに登録せず、生徒募集イベントにも参加がなかった	
3	高校を取り巻くネットワークの構築 (大学や塾などの関係機関)	大学や塾などの学校外で関係する機関と連携しながら、高校の支援体制の枠組みを広げられたか	担当者による振り返り
		3 多くの人と関係を継続的に保持できている 2 一部の人と関係を継続的に保持できている 1 関係を継続的に保持できていない	

第2次まちごとキャンパス構想

資料

①策定関係者名簿一覧

令和3年2月時点

運営部	事務局	策定委員会	分野	所属	役職	氏名	主に関わった柱
			高校	島根中央高等学校	校長	三島祐司	
					教頭	奥野晴之	魅力化推進体制
					主幹教諭	坂根博行	
					総務主任	清水登恵	
					教務主任	片岡利之	
					生徒指導主事	周藤慎弥	部活動
					進路指導主事	松田直子	学校教育
					寮務主任	日高圭	受け入れ体制
					地域活動担当	佐藤寛子	社会教育
					川本町	まちづくり推進課 (島根中央高校後援会)	課長
			課長補佐	竹下耕二			受け入れ体制
			魅力化CN	中村彰			学校教育
			魅力化CN	大畑直子			社会教育
			魅力化CN	大倉志帆里			部活動
			魅力化CN	須崎開人			受け入れ体制
			魅力化CN	波多野あかり			受け入れ体制
			魅力化CN	吉村朋子			プロモーション
				濱崎麻弥			魅力化推進体制
				コンソーシアム運営 マネージャー			岩義博
			教育課	派遣社会教育主事	竹田進吾	社会教育	
			地域住民	cuereate	代表	大村信望	学校教育

運営部	事務局	策定委員会	分野	所属	役職	氏名	主に関わった柱
			地域住民	かとり司法書士行政書士事務所	代表	香取亜希	学校教育
			川本町	教育課	課長補佐	坂根尚美	学校教育
			川本町	産業振興課	主任	横田将希	学校教育
			地域法人	社会医療法人仁寿会	課長代理	上田裕一	学校教育
			川本町外郭団体	弥山荘	支配人	谷和泉	学校教育
			地域住民	(有) 萩原商店	代表取締役	山下雄介	学校教育
			川本町	まちづくり推進課	魅力化CN	大江梨	学校教育
			高校	島根中央高校	教務主任	石飛憲	学校教育
			高校	島根中央高校	ふるさと学担当	小林大樹	学校教育
			美郷町	教育課	派遣社会教育主事	藤住亨	社会教育
			江津市	江津市役所桜江支所	総務係	梅木茂雄	社会教育
			川本町	川本西公民館	館長	市川和平	社会教育
			地域住民	三原まちづくりセンター	コーディネーター	大友葉子	社会教育
			地域住民	三原まちづくりセンター	コーディネーター	柴原かな	社会教育
			地域住民	子育てサークル「えっとね」		豊島睦子	社会教育
			川本町外郭団体	川本町観光協会		大久保一則	社会教育
			地域住民		地域指導者	笠岡孝二	部活動
			地域住民		地域指導者	上田武司	部活動
			地域住民		地域指導者	山根邦明	部活動
			中学校	川本中学校	吹奏楽部顧問	山根佳也	部活動
			高校	島根中央高校	生徒指導部	周藤慎弥	部活動
			高校	島根中央高校	カヌー一部顧問	堀田育子	部活動
			高校	島根中央高校	男子野球部部长	新田均	部活動
			高校	島根中央高校	部活動指導員	大倉史帆里	部活動
			地域法人	(株) キムラ農産	社長	木村俊晃	受け入れ体制
			地域法人	(株) キムラ農産	調理員	松原艶子	受け入れ体制
			地域住民	江風寮舎監		坂野一典	受け入れ体制
			地域住民	まち親		青木和昭	受け入れ体制
			地域住民	まち親		石川達也	受け入れ体制
			地域住民	RIVERBANKS	代表	神吉絵	プロモーション
			川本町外郭団体	かわもと暮らし情報センター	事務局長	浪崎健一	プロモーション
			企業	(株) TM21	代表取締役	阿部勝	プロモーション
			島根県	島根県教育委員会教育指導課	地域教育推進室調整監	立石祥美	魅力化推進体制
			中学校	川本中学校	校長	石田浩一	魅力化推進体制
			川本町	まちづくり推進課	課長	杉本政輝	魅力化推進体制
			川本町	産業振興課	課長補佐	伊藤和哉	魅力化推進体制

②役割分担

(学校教育、社会教育、部活動)

具体的な事業		島根中央高校	後援会	魅力化CN	その他	
(1) 学校教育	①-1	総合選抜型・学校推薦型選抜 (旧AO・推薦入試) 対策の強化	進路指導部	●	●	外部講師
	①-2	進学ゼミの強化	進路指導部	●	●	外部講師
	①-3	公務員講座の開設	進路指導部			
	①-4	大学生による学習サポート	進路指導部		●	
	②-1	生徒と地元社会人との交流会	主幹教諭		●	
	②-2	企業と連携した取り組み	主幹教諭 進路指導部 科目担当		●	
	②-3	地域をフィールドとした探究学習	主幹教諭 科目担当		●	
	②-4	インターンシップ	主幹教諭		●	
(2) 社会教育	①-1	地域活動の参加機会の拡大	地域活動担当		●	社会教育主事
	①-2	活動へ参加する生徒へのサポート	地域活動担当		●	
	①-3	地域活動の経験活用	地域活動担当 進路指導部			
	②-1	生徒が主体となった地域活動	地域活動担当		●	社会教育主事
	②-2	部活動単位での地域活動への参加	地域活動担当 各部活動顧問		●	
	②-3	マイプロジェクト参加への支援	主幹教諭 地域活動担当 クラス担任		●	
	②-4	自治会との連携による地域課題への対応	主幹教諭 地域活動担当		●	
	②-5	保・小・中・高が連携した交流活動	地域活動担当		●	社会教育主事
②-6	大学生や外国人(留学生など)との交流活動	主幹教諭 地域活動担当		●		
②-7	人財定住助成金事業の活用	進路指導部			外部講師	
(3) 部活動	①-1	外部資金の確保	生徒指導部	●	●	
	①-2	外部指導員の活用	生徒指導部 各部活動顧問	●		
	②-1	適正な部活動数の維持と生徒のニーズに合った部活動の提供	生徒指導部 各部活動顧問	●		
	②-2	近隣中学校との合同練習や交流会の実施	各部活動顧問			

②役割分担

(受け入れ体制、プロモーション、魅力化推進体制)

具体的な事業		島根中央高校	後援会	魅力化CN	その他
(4) 受け入れ体制	①-1 施設運営の連携	寮務部	●	●	
	①-2 寮生による自治運営	寮務部	●	●	
	①-3 寮生によるイベント実施	寮務部	●	●	
	①-4 食事の充実	寮務部	●	●	
	①-5 地域活動に参加しやすい環境づくり	寮務部	●	●	
	②-1 まち親確保のための取り組みの充実	総務部	●	●	
	②-2 通学に関わる支援	総務部	●		
(5) プロモーション	①-1 SNSによる情報発信	総務部		●	
	①-2 ホームページによる情報発信	総務部		●	
	①-3 学校だよりによる情報発信	総務部		●	
	①-4 自治体広報誌による情報発信	総務部			
	②-1 学校案内パンフレットの作成	主幹教諭	●	●	
	②-2 イメージ映像の作成	主幹教諭	●	●	
	②-3 オープンスクールの充実	教務部	●	●	
	②-4 県外での説明会・相談会参加・開催	主幹教諭	●	●	
	②-5 塾関係者との連携による継続的な生徒募集活動の実施	主幹教諭	●	●	
	②-6 近隣小中学生保護者を対象とした説明会の開催	主幹教諭	●	●	
②-7 入試説明会の開催	教務部	●	●		
②-8 オンライン説明会の開催	主幹教諭	●	●		
(6) 魅力化推進体制	①-1 効果的な推進体制の構築	主幹教諭	●	●	
	①-2 各事業の評価	主幹教諭	●	●	
	①-3 職員研修の実施	主幹教諭			
	①-4 魅力化コーディネーターの継続的な配置	主幹教諭	●		
	②-1 高校に関わる人たちとの関係の継続	主幹教諭	●	●	
	②-2 県外サポーター制度の継続実施	主幹教諭	●	●	
	②-3 高校を取り巻くネットワークの構築 (大学や塾などの関係機関)	主幹教諭	●	●	

③策定までの経過

令和3年2月時点

実施内容	実施日	
第1回企画スタッフ会 (事務局会へ移行)	令和元年 10月2日	まちごとキャンパス構想策定、コンソーシアム構築の方向性についての協議
第1回運営部会 第1回事務局会	12月18日	まちごとキャンパス構想の策定について共有 コンソーシアム構築について共有
第2回事務局会	令和2年 1月14日	第1次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題についての協議①
第3回事務局会	1月28日	第1次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題についての協議②
第2回運営部会	2月12日	事務局会の作業報告と今後の方針についての協議
第4回事務局会	2月14日	第1次まちごとキャンパス構想に基づく各取り組みの成果と課題についての協議③
第5回事務局会	2月25日	第2次まちごとキャンパス構想の具体的取り組みについての協議①
第6回事務局会	3月2日	第2次まちごとキャンパス構想の具体的取り組みについての協議②
第7回事務局会	3月11日	策定委員会配布資料の資料の確認と協議
第8回事務局会	3月18日	策定委員会進行について協議
第1回策定委員会①	3月23日	第2次まちごとキャンパス構想の具体的取り組みについて柱ごとに協議（部活動を除く）
第9回事務局会	3月26日	策定委員会の振り返りと今後の作成手順、分担について協議①
第10回事務局会	4月24日	策定委員会の振り返りと今後の作成手順、分担について協議②
第11回事務局会	5月14日	具体的取り組み、評価方法について協議①
第1回策定委員会②	5月18日	第2次まちごとキャンパス構想の部活動の具体的取り組みについて協議
第12回事務局会	6月1日	具体的取り組み、評価方法について協議②
第13回事務局会	6月16日	評価方法、全体の文言について協議
第2回運営部会	12月3日	まちごとキャンパス構想（案）の検討
第14回事務局会	12月16日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議①
第15回事務局会	12月28日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議②
第16回事務局会	令和3年 1月8日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議③
第17回事務局会	1月13日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議④
第18回事務局会	1月20日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議⑤
第19回事務局会	1月27日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議⑥
第20回事務局会	2月4日	第2回運営部会での指摘を受けての具体的取り組み、評価方法について協議⑦

おわりに

島根県教育委員会が策定した「しまね教育魅力化ビジョン（令和2年度－令和6年度）」の基本理念は「ふるさと島根を学びの原点に 未来にはばたく 心豊かな人づくり」です。本校には、この理念に基づいて「ふるさとの自然・歴史・文化・伝統を愛し、そして日本、世界を見渡す視野を持ちながら、高い目標や困難な課題に自分の力で立ち向かう子どもたちを育てる」という使命があります。そして、この地域の後期中等教育の拠点として、その存在意義を高めていくことが求められています。

本校は、これまでの高校魅力化推進事業に地域と一体となって取り組んできました。学校設定教科「キャリアデザイン」をはじめとする地域と繋がった特色ある教育活動は多くの地域の方々の協力があって成り立っています。また、積極的な県外生徒募集「しまね留学」によって、平成26年度以降の県外からの入学生は令和2年度時点で延べ180名を超えました。地域の方々と語りあやしまね留学の取り組みから生まれた多くの出会いが生徒たちを大きく成長させたことは間違いありません。今後も、子どもたちが学校内外の多様な人との出会いの中から、多くのことを学び、豊かな人間性と社会性を養い、未来を切り拓く力を身につけていくためには、地域の力は必要不可欠です。

この「まちごとキャンパス構想」は、本校の目指すべきビジョンに向かって6つの基本方針を設定し、特に本校の教育と地域の関係性を重視しながら具体的な取り組みを推進することとしています。また、各取り組みの推進体制や役割分担を明確にし、それぞれの取り組みの成果指標を設け、目標値が達成されているかどうかを検証できるようにしたところです。

構想策定にあたって、本校を応援くださる地域の多くの方々の豊かな知見の提供と惜しみないご支援とご協力には深く感謝申し上げます。今後は、この構想の事業の推進が本校のみならず、この地域の活性化の一翼を担っているという気概をもって取り組んで参ります。引き続き、地域の皆様のご助言とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第2次まちごとキャンパス構想策定委員会

島根中央高等学校第2次まちごとキャンパス構想

令和3年3月発行

令和4年4月改定

発行/島根中央高等学校 第2次まちごとキャンパス構想策定委員会

○島根県立島根中央高等学校

〒696-0001 島根県邑智郡川本町大字川本222

TEL 0855-72-0355 FAX 0855-72-0388

○島根中央高等学校後援会（川本町まちづくり推進課内）

〒696-8501 島根県邑智郡川本町大字川本271-3

TEL 0855-72-0634 FAX 0855-72-0635